Designer's Space

原口健一郎「休みの日」

原口健一郎：イラストレーター兼デザイナー　1991～1994年のガロ表紙デザインを担当。単行本の仕事は「怪人無礼講ララバイ」(根本敬著)、「托卵」「パースペクティブ・キッド」(ひさうちみちお著)、「妖霊星」「猫っかぶりゼネレーション」(近藤ようこ著)、「Zちゃん」(井口真吾著)、「月ノ光」(花輪和一著)、「クシー君のピカピアな夜」(鴨沢祐仁著)

もらされ男新宿池袋吉原漫遊記

松沢呉一

Vol.73

四月三日（木）

マガジンハウスの書籍担当から電話。拙著『新宗教の素敵な神々』で批判した教団の元信者から連絡があり、その教団は信者をサラ金に行かせて寄付させているとのこと。こういったテーマを書けるメディアと暇があれば調べもしようが、メディアも暇もない。それに、宗教として問題あるとしても、好きで寄付したのなら、しょうがないようにも思う。

四月四日（金）

新宿ロフトプラスワンへ。宅八郎の「放送禁止大学」。ゲストに予定していた霜師さんが出られなくなり、急遽私が出ることに。

宅が遅刻、ロフトプラスワンの平野氏と壇上でダベって時間潰し。平野氏は不用意な人で、トラブル連発のため海外に逃亡、昨日帰ってきたところ。なのに本日も不用意発言。やがて宅が到着、第一部はライター金井覚の司会で放送禁止映像を流す。第二部は「雑誌の行く末」というテーマで私が加わる。

終わったあと、宅は「ちょっとしゃべり過ぎたかな。でも、誰かが今日のビデオを見せろと言うなら、喜んで貸すよ。ボクのリサイタルのビデオもつけて」という。もちろん私も批判対象者にビデオを見せることに異存なし。ワシら、本人に聞かせられないようなことを公然と話すほど無責任じゃない。

終わったあと、元ジャニーズ事務所所属の「カルチャースター」平本淳也とダベる。三日で本を一冊書く彼は「早く書けば書くほど売れる」と言う。著書を四十万部以上売っている平本君に、私と宅は売れるライターになる方法を伝授してもらった方がよさそう。

四月五日（土）

タコシェへ。タナカカツキ・フェア初日。久々にタナカカツキに会う。女性ファンばっかりで、しかも美人さんが多い。叙情派だからなあ。オレも叙情派になるか。叙情派エロライターとか叙情派店員とか。

元祖メディカル・アーティスト、フランス人のロマン・スロコンブとイギリスの出版社の人をトレバー・ブラウン夫妻が連れてくる。今回の滞日中、ロマンはあちこちでタコシェの話を耳にしたそうで、すっかり気に入ってくれた様子。世界中からこういう人達が集まってくれると楽しいなあ。

四月八日（火）

朝方、寝ようとしたらFAX。四人の女性が「まっ、体調はどう？　早く体を治してね」などと書いている。私の尿道炎を心配した風俗嬢らかと思ったが、一人を除いて名前に心当たりがない。よく見れば発送元が某カード会社になっていて、「だんなさんにごはん作ってもらうんだよ」ともあり、病欠している同僚に送ったものとわかる。手書きで書かれたこちらの番号は合ってるし、私は「まっ」だし、よく知っている名前が入っているしで、ここまで重なる偶然も珍しい。「体調はそんなに悪くない」と書いて送り返す。

夕方、AV雑誌の取材を受ける。肛門について。風俗のAFブームを受けて肛門特集を組む雑誌が多い。私は入れるのも入れられるのも上手じゃないが、男女ともアヌスは相当数見てきているから、見る目は肥えている（因に、アヌスは名詞、アナルは形容詞なので単独で使う場合はアヌスが正しい）。

四月九日（水）

松沢堂第二弾『厠に蜂の子』のまとめを始める。先日、読者から「予約しているが、まだ出ないのか」との手紙をもらい、借金もあるので、そろそろ出すしかない。平本君の言葉に刺激され、今回は改めて調べ直したい欲求を極力抑え、手を抜くことにする。

朝六時前に電話。誰かと思えば知り合いの女王様。「今うちに帰ったの」と言う。そんなこと、いちいち報告していただかなくても。女王様って電話する時間帯が暴力的。最近電話してこないが、出社前に用もないのに電話してくる元女王OLもいるし。朝の7時台に「元気ぃ？」って言われてもねえ。

四月十日（木）

午前中、三和出版「カルテ通信」用にロマン・スロコンブのインタビュー。

午後、某出版社へ。単行本になってないものを文庫で出す話。文庫戦争のため、タイトル確保が大変なのだろう。その点、質はともかく数書いている私は格好の書き手で、今まで書いたもので軽く十冊は作れるだろうが、「企画を考えるのは面倒なので、お好きなものをお好きなようにまとめて下さい」と話す。この会社とは本を出す話が三度もボツっていて、今回も手間暇かける気がしないのだ。

四月十一日（金）

マニア誌は別だが、エロ雑誌の文字ページって誰も読まない。私だってあまり読まない。「ヤンナイ」の「エロ街道五十三次」が私の連載の中で一番面白いと思うが、読んでいる人をほとんど知らない。それはいいとして、事情があって連載を降りようかと思っていたところ、本日、小林よしのりを蛇蝎の如く嫌う面識のない編集者より「ヤンナイのノリで原稿を書いて欲しい」と依頼がある。全国で五人くらいは読んでくれている人がいるようなので、もうちょっと続けることにする。

四月十四日（月）

三和出版の「おもらし倶楽部」の撮影。今回私は卓球のコーチ役。生徒役の高見ゆめかはタクシー運転手にフェラして料金をタダにし、その上金をもらったりしている要領のいい子。彼女を背負って階段を昇っている途中、小便を漏らす撮影で、私の背中は小便でグチャグチャ、靴にまで小便が溜まる。

撮影用に借りてきた卓球台を使って、深夜まで卓球に熱中、そのまま三和に泊まる。

四月十五日（火）

卓球のせいで体が痛い。靴は乾き、小便のニオイもしないので、そのままはいて帰る。

あっちゃこっちゃ回って、夜、青林堂へ。杉作さんの話をしていたら、ちょうど杉作さんが来る。杉作さんとはこういう偶然が多

■卓球コーチとおもらし生徒

い。新作エロ話をしたら、杉作さんは「これからデートで、珍しく今日は欲情していたのに、エロ話を聞いているうちに性欲がなくなった。危うく我を忘れるところだったのが、いつもの自分を取り返せてよかったですよ」と言う。よくわからんけど、いいことしたのかな。

四月十六日（水）

吉原で一日取材。ソープは他の風俗ほど簡単に入り込めないのがもどかしい。金があったらついでに遊んでいくところだが、金がなくて、これももどかしい。吉原にも馴染みの子がいたが、もうやめてしまったろうなあ。

四月十九日（土）

タコシェへ。町野変丸フェア初日。あっという間にサイン本がなくなる。色紙やTシャツも順調。さかもと未明が来店、茶をする。

本日、モロモロについて、「ヤンナイ」の編集長が説明をしにタコシェに来る予定で、閉店後もずっと待っていたのに、すっぽかされる。失礼しちゃう。「風俗店一日取材」「風俗観光案内」「新風俗体験」「幻の射精を求めて」といった内容を「ヤンナイ」でやってきたが、こういった連載をやらせてくれる別の雑誌を探すしかなさそうだな。

四月二十二日（火）

すっかり仲良くなった池袋「無我」の来夢女王（前号参照）とカラオケに行く。どうして最近の娘っ子はこうも歌がうまいかな。

四月二十三日（水）

私と宅八郎と金井覚が実在する三人と喧嘩する夢。それぞれの立ち降る舞いが現実のキャラや関係性を踏まえていてリアル。

四月二十五日（金）

池袋の性感ヘルス「メロン」に朝九時半から16時間居続けて疲れ果てる。この店、特に早番の女の子の質が高く、元気ハツラツのマコちゃんとしっとり美人のしほちゃん、天然スケベパワー炸裂の舞ちゃんがオススメ。

たまたま「ヤンナイ」の営業の人が来たので挨拶したら、彼は私の連載を知らなかった。エロ雑誌の文字ページってこういうものさね。

四月二十六日（土）

夕方タコシェへ。本日、三和の変態コミック誌「フラミンゴ」を見て、ギャル二人組が変丸グッズを買いに来たそうな。「フラミンゴ」に女性読者がいるとは驚いた。AF、スカトロ、多乳頭とか好きなのかなあ。

四月二十七日（日）

「S&Mスナイパー」主催「第二回アナル選手権」。第一回では応募者の半分が来なかったので、多めに確保しておいた方がいいと編集部に念を押していたのに、前日になって奥さんから「主人の性癖は全部わかっていません」と電話が入ったり、当日来なかったりで、読者アナラーは全滅（最近、AF嬢やアナル・マニアを「アナラー」と呼ぶが、この言葉は「アナル選手権」から始まった）。ゲイ・アナラーにも参加してもらおうと声をかけていたゲイ雑誌「バディ」の編集者と、アヌスを調教していない人がどのくらいダメかを比較するために呼んでいたM男の元気君の二人しかおらず、人が足りない。普通なら、編集者が「だったら僕がやります」と言うところだが、この編集者は誰もケツを出さない。かといって審査委員長の私がやるわけにもいかない。ここで新人女性編集者が「彼氏を呼びます」と電話、間もなくやってきたイラストレーターの彼氏はマニアでもないのに、わけもわからずケツで重量挙げしたり、ウズラの卵を入れられたり、浣腸されたり。二人の美しい愛の姿に感動。

第一部の規定演技では彼が大健闘したが、第二部の自由演技でゲイ代表が大技を繰り出し、審査員の天願大介監督や三代目葵マリー、ピンク女優の吉田チホら呆然。アナル杯は二回目にして「バディ」に持っていかれる。

四月二十八日（月）

「ウレッコ」の鶴木とフォルクスでメシ食いながら、風俗雑誌をどーんと広げて、次の号で取材する女の子の品定め。鶴木の趣味が今ひとつわからず、あっちも私の趣味がわからず、何の利害関係もないのに互いの好きな女の子を弁護し合い、ケンカ寸前。

鶴木が根本敬のファンだというので、鶴木の運転で横浜へ行き、手描きカルタ・セット、手描きシステム手帳、一部限定作品集（原画や生原稿を綴じたもの）など、明日からの「根本敬ゴールデン・スペシャル」の商品を受け取る（一昨日からの予定だったのだが、連絡ミスにより、ズレてしまった）。

四月二十九日（火）

知人の現役ソープ嬢とその友達の元ソープ嬢（現在ヘルス嬢）に取材。そのあと、どうやったら指名を増やせるかの相談に乗る。来月どれだけ指名が指名が増えるか楽しみ。

毎年、ゴールデンウィークは関西に行くことにしていたが、今年は無理。『厠に蜂の子』のため、原稿が軒並み遅れ、毎日二本ペースで原稿を書かねば。その上、取材が詰まっていて、普段より忙しい。

四月三十日（水）

「S&Mスナイパー」の取材。五反田「キング&クイーン」のミサオ女王は研究熱心なだけあって、安定感のあるいいプレイ。彼女によると、私の連載を読んで、どうして自分に声がかからないのかとふくれている女王様がいるという。そういえば、「アナル選手権」に参加した元気君も、懇意の女王様が「あんな女王を出すなら私を出せ」と怒っていると言っていた。名乗りを上げてくれればいいのに、女王様ったらプライド高いから。

夜、鶴木と歌舞伎町の風俗店を回って取材する女の子探し。ちょっと行かない間に馴染みの子が続々辞めていて悲しい。

深夜、宅八郎と電話で話す。宅の夢にも、私が夢に見た人物が登場、夢の中で宅は彼を殺したそうだ。私からその名を言うわけにはいかないが、殺したい気持ちはよくわかる。●

倶楽部イレギュラーズ

n.51 高杉弾

愛のあえぎ声　第18回・その2

高杉弾のインターネット・ホームページ
JWEbB = Jappy World Expresss by Bus
URL = http://www.kt.rim.or.jp/~imi/jwebb.html

　菊右衛門は理佳子のショーツのゴムのところに指を二本差し込むと、そのままめくるようにしてじっとりと湿った理佳子の恥かしい毛の生えた陰部にぬめぬめと指を差し込んでいった。
「ああん菊右衛門さん、そんなことをしちゃあ、いや」
　理佳子は理佳子の恥かしい毛の生えた陰部に差し込まれた菊右衛門の手に手を当ててはみたものの、それ以上なにもすることができず、ただ快感声をあげるだけだった。
「あうん、ぐ、くぇえい」
「さあ、どこが気持ちいいのか言ってみなさい言ってみなさい言ってみなさい」
「……………」
「はっきり言わないとわからないじゃあないか」
「あの、なんというか、その……、おまんこが」
「おまんこが気持ちいいのかい？」
「そうです」
　菊右衛門は理佳子のまんこの穴に挿入した指をぐりぐりぐりねちょねちょねちょとかき回した。
「ああ、菊右衛門さん、早くわたしのぐちょぐちょになっているおまんこの穴に菊右衛門さんの太くて固い陰茎を挿入してくださいっ」
「いいとも。じゃあ今から僕の特別に太くて固い陰茎を理佳子のぐっちょんぐっちょんになったおまんこの穴に挿入するよ」
　菊右衛門はそう言うと、菊右衛門の特別に太くて固いちんぽを理佳子のぐっちょんぐっちょんになったまんこの穴に差し込んだ。
「どえ、ぐひえ、ずるぶるるう」
「どうだい、うびらでしいだろう？」
「ええ、とってもうびらでしいわ菊右衛門さん」
「もっとしてもらいたいかい？」

「もっとしてもらいたいわ菊右衛門さん」
「こうかい?」
「ずるぶう、うんごとまけしあた、まんかれどされた」
菊右衛門は理佳子のべっちょんべっちょんに濡れまくったまんこの穴に差し込んだ太くて固いちんぽをくねくねくねくねすぼぽんと動かし、右手で理佳子の乳首の付いた乳をわしづかみにしている。
「どげれえ、まんかれどされた、まんかれどされた、まんかれどされた」
「そんなにまんかれどされたのなら、わたしのぐっちょんぐっちょんにまんかれどされたど腐れまんこを目茶苦茶にほじり倒してと言ってみなさい」
「ぐげれ、わわわわたしのぐっちょんぐっちょんにままままんかれどされたどぐされまんこをめめめめっちゃんくっちゃんにほほほほじりたおして、おおおお願い、お願いよ菊右衛門さん」
いっぽうその頃、理佳子の腟内にひそむ愛汁菌たちは……。
「なんやねんこの姐ちゃん。なんちうわけのわからんことほざいとるねん」
「いっぱつかぶりついたろか」
「かぶりついたろやないけ」
「いで、いでで、いでで、いでででええお」
愛汁菌に腟壁を思いっきりかぶりつかれた理佳子は、痛みに呻きながらも更に快感声をあげ続ける。
「ぐげれ、ぐげれ、ぐげれええお、ぐげれちったれまんちんたん。ええで、ええでお」
「ええでいうとるで」
「ええでいうとるな」
「みんなでかぶりついたろ」
「みんなでかぶりついたれ」
「ぎえお、ぎええええお」
「ところで君、近代の原子物理学についてどう思う?」
「ぎえお、ぎえお、ぎえええお。ぎえおちったれまんちんたん」
「ううむ、じゃあこれならどうだい?」
「あふんあふふん、あふれちったれまんちんたん。ぐえおぐえおぐえお」
理佳子は腟、小陰唇、中陰唇、大陰唇のすべてを動員して菊右衛門の太くて固いちんぽをくわえ込み、思いきり腰を使って菊右衛門の太くて固いちんぽを出したり入れたりしてもっと気持ちよくなるようにしている。
挿入された菊右衛門のちんぽが理佳子のまんこを出たり入ったりするたびに、理佳子の腟皮膚は菊右衛門の太くて固いちんぽをくわえたまま中に押し込まれたり外に押し広げられたりして、菊右衛門の太くて固いちんぽと理佳子の腟皮膚の間からは菊右衛門のちんぽ汁と理佳子の愛汁が撹拌されて混ざった白い汁が理佳子の肛門の方へ理佳子の肛門の方へと流れていく。
理佳子の愛汁にひそむ愛汁菌たちもその白い汁に混ざって理佳子の肛門の方へ理佳子の肛門の方へと流されていく。
ぐっちょん、ぐっちょん、ぐちょぐちょぐっちょん、ぐちょぐちょぐっちょん、ぐちょぐちょぐっちょんぐちょぐちょぐっちょん、ぐにゅうぐにゅぐにゅ、ぐにゅう、ぐにゅう。
「すぽぽぽ~ん」
「すぽぽ~ん」
「射精したよ」
「射精したのね菊右衛門さん」
「さあ、もう一度はじめからしようね」
「はい、もう一度はじめからしてください菊右衛門さん」
「ピストン運動いうてな、わしら、おめこ汁ごと吐き出されてしもたがな」
「おめこ汁ごと吐き出されてしもたがな」

CLuB iRReGuLaRS

graphix: heiquiti harata, EDiX and associates.

DAN TAQUASUGUI

TOJIMA劇場

とうじ魔とうじ

連載第33回

〈ことばの写真館〉のこと

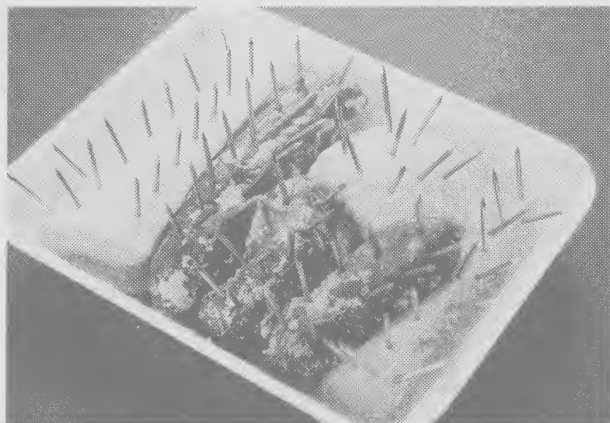
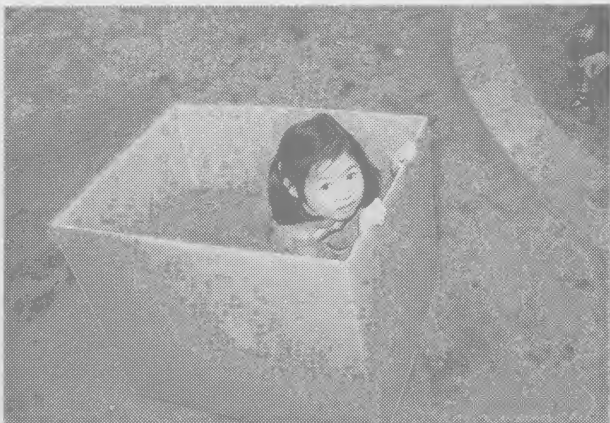
今月はいったいどんな変わったアーティストが紹介されるんだろう、と毎月この「TOJIMA劇場」を楽しみにしてくれている愛読者の皆さん、ごめんなさい。今月は僕自身の作品を取り上げてみることにしました。〝ジャンル撲滅派〟の僕はサウンド・パフォーマンスの仕事に限らず、「全ての〝ジャンル〟は手段にすぎない」という認識のもとに、あらゆる形態でボーダーレスな仕事をしてきたわけですが、その中の一つに〈ことばの写真館〉と呼ばれる一連の写真作品シリーズがあります。

〈ことばの写真館〉は豆腐と豆腐をかすがいでつないだ「豆腐にかすがい」、釘を打ち込んだ糠床を撮影した「ぬかに釘」といったように、諺や慣用句、その他の言葉を実際に視覚化して写真に収めようという試みなのです。って言うか、早い話がダジャレ写真なんですね。まあ写真作品といっても、僕は別に写真技術があるわけではないので、毎回カメラマンに撮ってもらってるんですけど。

〈ことばの写真館〉は最初、ミニコミ誌『車掌』の人気連載でした。『月ノ光』（東京デカド社）とかいう雑誌にも載りました。それから商業誌に移り『マルコポーロ』（文藝春秋）で連載していましたが、『週刊文春』の名物編集長だった花田紀凱さんが『マルコポーロ』の編集長に異動し全面リニューアル、僕の連載がなくなってしまいました。「なんだ、がっかりだなあ」と思っていたところ、例の「ナチのガス室はなかった」とかいう記事で『マルコポーロ』自体が廃刊になってしまいました。

『マルコポーロ』がなくなり発表の場を失った〈ことばの写真館〉は、その後は週刊誌の単発企画で機会があるごとに発表を続けてきました。『SPA!』（扶桑社）では〈史上サイテーの報道写真展〉という企画で各界クリエイターが自分流の〝ニセ報道写真〟を撮って競作したのですが、僕は〈ことばの写真館〉の新作「缶缶接待」というのを発表しました。これは新宿西口地下道のダンボールハウスに住むホームレスのおっさん達が缶ビールで乾杯している風景を撮ったもので、地方自治体の官官接待にひっかけてみたもの。この時はカメラマンを雇わずに自分で撮ったんだけど、『SPA!』誌上にカラー見開き2ページで大きく掲載されました。

つい先日は『ぴあ』が「ヨーロッパ拷問展」に合わせて拷問特集を組み、その中で僕に「とうじ魔とうじ流の笑える拷問を考案して欲しい」というので、〈ことばの写真館〉の新作「むしパン」と「ハリハリ漬け」の二点を撮り下ろしました。撮影はとうじ魔とうじオフィスの本多晃子カメラマン。そうそう、雑誌以外にもギャラリーの展覧会でも発表したんだった。その時は細川ふみえの写真を床に貼って客に踏ませる作品「ふみえ」（踏み絵のことネ）とか作ったんだ。

まあ、そんな感じでここ数年、宿無しの居候生活を続けてきた〈ことばの写真館〉なのですが、ようやく根城がみつかりそうです。モノクロページなのが残念ですが、今後は『ａｓａｙａｎ』（ぶんか社）という雑誌に不定期に発表していく予定。全国三千万人のとうじ魔ファンの皆さん、待たせたな！

★ハリハリ漬け

★むしパン

★せんべい布団

★缶缶接待

★箱入り娘

★豆腐にかすがい

さよならのカウント・ダウンにむけての、あらためてあいさつ。

Vol.38
〒一〇一 東京都渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル ㈱青林堂内
ガガガ新聞社
編集発行人／園子温

ガガガが突然の休止状態に入ってもう一年たつ。本来、東京ガガガという、実際行動のリポートと、その周辺を記録し、記事にするためにあった、この新聞は、今やその存在意義を半ば消失し、数々のイベントや詩や、情報を掲載するものになっている。良くいえば、バカボンが全く出演しなくなったタイトルだけの『天才バカボン』みたいなものだ。

私は映画監督である。

ガガガはいわば、映画の副作用で突然変異を起した、変った珍獣にすぎない。あくまで、映画が先にあって、その余波でガガガがあった。あるつもりだった。それが、ご承知の通り『東京ガガガ』は、手に負えないものに変化した。

自分が操縦できる小さな玩具のつもりが、私を乗せて突っ走る巨大な竜になってしまった。人数は膨れあがり、いつのまにか世間の話題にものぼっていた…。いつのまにか、NHKのニュースになり、TVで特番が組まれ、週刊朝日のグラビアを飾るようになった。フランスの国営放送に出演し、興奮したフランス人の視聴者から、「アエラ」に『ガガガにエールを贈る』という投書まで届くようになった。

終わるに終われないというやつだ。

私は、それから終わる時間ばかり考えるようになっていた。最初の頃にあった、すがすがしい感じが失われてきて、最後は、集まってくる人間にも、クズが多かった。それでも、素晴らしい出会いもいっぱいあって、だからズルズルとやってしまった。

それでも、今まで戦ってきたケーサツのおエラ方でさえ、ガガガを何とか、取り込もうと、カラオケなんかに誘ってくるほど、空気がぬるくなってきた時、断固として、終わらなきゃ、と決意した。そしてガガガは、数年間に渡る活動の幕を閉じた。

その時から、実は、この『東京ガガガ新聞』も、カウントダウンが始まっていたのに違いない。気づくのが、少々、遅かったといっていい。さよならは、カウントダウンされている。そして、自分が、それに気づいた時、最後に、何か言っておいた方がいいと思いたち、投稿詩等の、連載を一切、身勝手ながら中止させていただき、一九九二年のゴールデンウィークを皮切りに始まったこの「大波乱を、自分なりに整理していくと同時に、言いたい放題、書きたい放題、わがままさせていただくことにした。

今回は、後期ガガガに数度参加し、ケーサツカンと大声はりあげ、ケンカしていたロフトプラスワンの名物店長にお越しいただき、ショーケースの対談をさせてもらった。

ロフトプラスワンの店長、平野悠氏は、以前、「ガロ」でも取り上げられたし、他雑誌に紹介記事も多数、載っているから、読者にもご存知の方も多いと思う。とにかく、今、話題のロフトプラスワンの人だ。平野氏自身、以前『風』というグループを作り、若者たちのノンジャンルな勉強会を開いていた。ロフトプラスワンに集まってくる若い連中に呼びかけ、何かできないかと考えたらしい。きっかけは、ガガガに触発されたとも言っていた。残念ながら、ロフトプラスワンのようには話題にもならず、『風』じたいは小さな風船のようにしぼんでしまった。（細々と続いているようだが。）だからガガガのような軍団と比較するには、かなり無理がある。が、『風』も「組織化しない集団」「統一見解のない集団」の末路としては、ガガガと似てなくもない。ガガガと違って少しも犯罪の香りはしなかったが、そのかわり『風』にはその名の通り、すがすがしい感じの若者でいつも和気あいあいだった。そして、それ以上でも以下でもなかった。（『タコ』の山崎春美なんかも在籍していた。）今夜は、この紙面で、平野悠氏とトークをする、というのがまずテーマであった。その材料として、『風』を、ガガガに比較したりしながら何かをスケッチできたらと思う。

この項左ページにつづく←

映画的肉迫

今年、公開したばっかの俺の映画「桂子ですけど」も、そろそろ全国拡大ロードショーする。まず、名古屋（7月）を皮切りに、北から南まで公開するんで、是非、見てくれよ。

ところで、この映画に出演した鈴木桂子嬢は、公開直後、いきなり豊川悦司や鈴木保奈美との共演の話なんかまいこんできて、びっくりしちまったって。うらやましいなあ。俺のところには何故か、そんな話、来ない。

『自転車吐息』みたいにドラマを撮ってた頃は、TVのプロデューサーから「宮沢りえで一本撮らんか」とか、話があったけど、全部、蹴っちまったら、もうサッパリだ。あの頃は、生意気で若かったから、バカなトレンディドラマなんかイヤだと、思ってた。でもこの歳になると、情けないけど、そんな話が今、あったら、犬みたいに尻っぽ振ってついてっちゃうだろうな。よだれ垂らして。

ポリシーなんて、政治家のそれとよく似てて、年を経るごとに、失くなる。今、つまんねえ大作を撮ってる奴らも、昔は8ミリ小僧だったんだ、例えば大森一樹とか。

ところで、鈴木桂子嬢も、やっぱり若いな。結局、トヨエツの共演も何もかもケッちまった。

「園の映画だから出ただけ」だって。嬉しいね。俺の場合、今年こそは、『商業映画監督宣言』するって意気まいて、担当の北園クンと毎晩、ビール飲んじゃあ、スゴイの撮ろうって誓ってるけど、ホント、不安だなあ、本音は。

また自分の金で映画撮るハメになるかもしれない。映画撮る金を、生活にまわせたら、どんなにハッピーだろうって毎年、思ってる。今年こそ、他人の金で、映画を撮るんだって意気まいて、結局、『自主映画（インディーズ）』を撮ってきた。つくづく映画ってシャブだと思うよ。映画やめるか、人生やめるか。両立はできない。

よく、若い奴から「映画やりたいんスけど」なんて、相談されるけど、俺の場合、あっさりと言ってるもの。やめろって。たいていが生ぬるい環境を想像して、「映画は誰にでも撮れます」みたいな、マスコミの甘い民主主義にどっぷりつかったガキ共は、いかん。

役者志望もそう。裸にはなれないけど、キレイに撮ってくれたらなあ、とか言ってくる。東宝や松竹と違って、インディーズの窓口なら、何とかなるんじゃないかって、なめてるから、役者として生きる度胸が座ってないんだ。

今月から、映画に関しては、もう言いたい放題、言ってくからな。そして、商業映画第一号をぶちまけたところで、やりました！　なんて爽快な気持ちでフィナーレを飾りたいね。今からケツを考えてるなんて変だけど。■

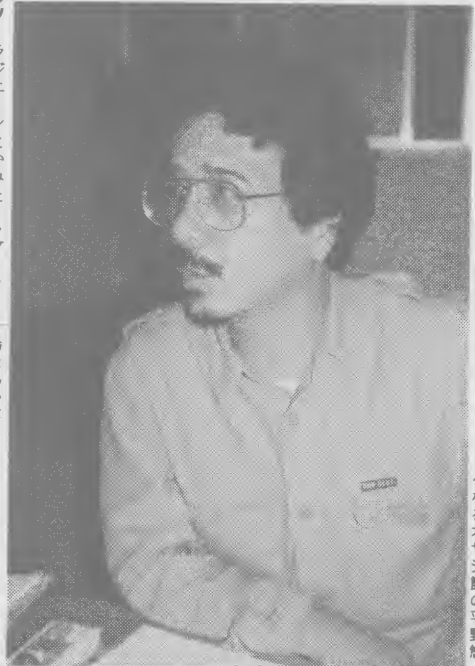
"ガガガ"は死んだ!!"風"は止んだ!!

《対談　ロフトプラスワン席亭 平野悠 ― 東京ガガガ新聞発行人 園子温》

平野　「風」は終わったということではなくって、「風」という場で若いコらを組織化できずに、ガガガと同じエボックに入ってしまったということなんだ。つまり、集団の自由、個人の自由を考えた場合、組織化するのは難しいと。あと、今の偏差値の時代、若いコは命令されたがってる感じがする。指示されないと次のことができないワケ。で、さらに彼らは出会って彼氏彼女ができると、自分たちが気持ち良くなっちゃって、そこから新しい出会いを開拓しない。新しい人たちにその楽しみを返してやるという行動に移らないんだ。これじゃあオタクと一緒。俺は、反オタクには拡大再生産しかないと思ってるから。

ソノ　ガガガも無思想、無宗教を標榜してたけど、やがて無節操やら無責任がからんでつまらなくなった。だから僕には「風」がこうなるって見えてた。結局、統一見解があればイイんだろうけど。

平野　オヤジが頑張ればイイと（笑）。でもね、組織って最低で、セクトのやったらやり返せとかさ。「守り」に入ると革マルとか日共になるし。

こちらソノシオン

ソノ　ラジニーシとかみたくラブ・コミューンにしちゃえばいいじゃん？

平野　バカ、俺はソノと違って会員の女には手を出さないの。

ソノ　そういう誤解されるようなことは言わんでください（笑）。結局は「風」のひきつけるものって平野のオヤジってことで、それが無くなったという。

平野　園子温というカリスマがガガガに飽きたらそれで終わっちゃう。No.2が出てこないから継承されないんだ。

ソノ　「何故やめたんですか？」とか聞かれるけど、だったらオマエがやれよって。

平野　まあ、「卒業」があってもいいんだけども「更新」がない。寂しいから入る、孤独だから入る、それが解消されたらそんな団体にいる必要ないと。だったらバソ通でもやってろよって。ハンドルネームなんて馬鹿げた逃げ場作ってセコく言い合いでもしてればいい。若いのに逃げ場なんか作るなよって俺は言いたいけども。

うなるオヤジ節の平野悠

ソノ　ガキは無責任だから。

平野　ガキもオトナも無責任だ。彼らには続ける価値の無いモノなんだろうと思うしかないよ。

ソノ　金稼いでホテル行った方がいいんだろ。

平野　俺たちの若い時代、無知はコワイって知ってた。「ゴダールも観てないの？」って言われりゃ「ガーン！」て。今のコは無知でも「キョーミないから」で終わりだもんなー。志が低いというか。

ソノ　レベルが低くて、「ライバルは隣の××ちゃんです」っていう。

平野　夢がない。

ソノ　半径1メートルの夢。さもなくば、認知された既存の「夢」で、それ以外の新しい方向へ向かないとか。

平野　俺はこういう不毛な状況を批判する能力もなく、今はただ笑うしかない。東大出の嫌な奴らが好き勝手やってるのを若い奴らは黙ってるわけだから。もうあとはドン底の状況まで行って欲しい。自分のメシが食えなくなりゃ気が付くだろうから。ホント酷い状況だよな。ヒドイと言えば、このガガガ新聞ってヒドくつまらんな。2Pももったいない。ソノのセンスが出てないぜ。それを許してた編集部の北ゾノもヒドイ。クビだ！

ソノ　今月から連載終了に向けてカウントダウンするんですよ。

平野　バカ、カウントダウンなんかしないで、もう一回根性入れてやり直すくらいの発想を持てよ。タコが。

ソノ　ム、それじゃあそろそろ平野さんの筆禍事件に話題を移しましょうか？

平野　そんなことより、最近つくづくロフトプラスワンて面白い店だなあって。

ソノ　さんざん「飽きた飽きた」って言ってたのにコレだ。店の宣伝で終わらせないように、今日はこれまでッ。

※　　※

いやー、いつもながらほとんど一方的にまくしたてられちゃったけど、ホント団塊の世代ってのは口が達者ですな。それにしても若者批判に終始した爺むさい対談になっちまった。しかしまあ、これ読んで発奮するくらいの気概が欲しいもんだ、と、再度爺むさく言っておこう。

さて、次回からはガガガに関して、「いったい何がそこで起きていたのか？」を、もっと深く掘り下げていこうと思いますんで。ほいじゃ。

ソノ

蜂巣敦 日本の殺人者

ATSUSHI HACHISU
MURDERS OF JAPAN

銃は、神だ！

第二十三回 少年ライフル魔事件②

事件の翌月、昭和四十年八月十六日発行の雑誌『ヤングレディ』に、「銃はかれにとって唯一の神であった」という記事が載っている。そのなかで筆者の菊村到は、片桐操について次のように書いている。「いままで正常な健康人だとばかり思っていた人物が、ある日突然に発狂して殺人鬼に変貌するというのは、まことにショッキングで恐ろしいことだ。最近亡くなった梅崎春生氏の遺作「幻化」という小説には、気違いの話が出てくるが、その中にチンドン屋を見ると頭がおかしくなるという男が描かれている。この男の頭の中ではチンドン屋のイメージが、ひとつのオブセッション（憑きもの）となって特別な作用をするわけである。

片桐操にとってガンがよいオブセッションとなっていたことは明らかである。他の物事や現象に対しては平静でいられるのに、ひとたびチンドン屋を見ると特別な反応をおこして狂いだす狂人のように、片桐操はガンにだけ異常なまでの執着を示していた。」

――個人的に興味深いのは、実は、論の内容よりもここで「幻化」が引き合いに出されていることだ。好きなんで。最近、師匠（南原四郎『月光』編集長。この間、フリーマーケットで五百円で買ったイタリア製の靴を「サイズが合わない」といって、呉れた）と会っても、梅崎春生の話ばかりしているよ。あと、香港グロ映画「人頭肉骨麺茶」の話。

まあ、近頃の若い人は梅崎春生の小説なんか知らんだろうね。私も、知らん。ちょっとだけ知っている。梅崎春生自体が、一般的には忘れられた作家なのかな。戦記文学なんて、イメージ的に辛気くさいからな。本は現在ほとんどのものが絶版だし、古本屋でも梅崎作品について書いた評論書なんか百円で投げ売りされていたりするそうだし。

しかし、テーマとなっている狂気は、状況を飛び越えて個人的なものだし、むしろ今日的なものだ。狂気の前では、あらゆる環境がフィクションの肌ざわりを持つし、また、あらゆる状況が設定されうるものだろう。

梅崎春生は「ライターズ・ライター」っていうの？

「作家に支持される作家」みたいな位置にはあるね。最近でも、意欲的な創作者に強い影響をあたえている例が少なくない。町田康なんかもそのひとりだね。そうだね、中島らもとかの小説は好きでよく読むんでしょう、ナウな若者は？

ユーモア面もふくめて面白さに共通する要素もあるので、そうした人たちは紐解いてみるのも一興でしょう。ただし、狂気の刃は梅崎のほうが身が厚く、先が鋭い……と個人的には思う。

なんか、梅崎春生は生前すごい嫌なやつで、遺作となった「幻化」（これが一般に最高傑作と評されているのだけれど）を書いたときも、「俺が小説の手本を見せてやる！」とか傲慢かましていたらしい。けど、存外力強い印象の終わり方なので、今から死のうとしている人も、読んだらええ。

さて、片桐操が最初に警官を撃ったのは、職務質問に腹を立てたからだとされている。だとすれば、「なぜ、職務質問を受けた程度のことで……」というのが当時もいまも残る疑問なわけだが、実際に自分が受けた経験からいうとやはり腹が立ちますね、あれは。これまで何度か、職務質問をされたことがある。片桐の場合、銃の禁止区域で発砲するという違法行為を犯していた事情もあるのだが、自分の場合、いずれも夜中か明け方、

犯人・片桐操

道路の片隅をトボトボ歩いていただけなんでね。ある時は「オイ、オイッ」と手前の飼い犬でも呼ぶかのように後ろから呼び止めやがる。またある時は「いま車の横を通ったとき、車の中を見たろう?

自分の車でもないのに、なんで中を見たのだ?」などといきなり質問される。最近、車荒らしが多いというわけだね。しかし、質問を受けたこちら側としては、この問いはとっさに哲学的命題に変質するのだ。「見たわけではない。いや、見たかもしれぬ。別に意識して見たわけではない。車内の記憶は残っていない。物盗りの意識はなかった。しかし、見ていないと断言できるか?

あるいは、意識して見ることもあるかもしれぬ。では、見ること自体がすでに犯罪なのか?

見て悪いか。だが、見たとしたら私はなぜ見たのだろう?

潜在意識でなにを考えていたのか?

人類はどこから来てどこへ行くのか?」……単に、私がバカなのか?

船員時代の犯人・片桐操

それで、自分の判断力の低さもふくめて頭にくるので、こっちもガーッと警官に突っかかっていくのだけれど、そうすると、自分のなかで自分という存在がますます怪しくなっていきます。でも反比例して、なんか向こうも引いたかたちになって、取り調べもうやむやなうちに解放されることがあって、よくわかりません。それから一度、「態度が無礼だから任意では協力しない」といって立ち去ろうとしたら、前にまわって肩と腕をつかまれて、押し止められたこともあるから、職務質問っていうのは、あれは強制だね。しかし、こっちが「あんたも名を名乗れ」っていったら、「ピストル持っているから、お巡りさんだってわかるから、名乗る必要はないッ」ってそんな理屈はないだろ。

……といったようなことを思いだしていたら、先日の夜、仕事先の事務所に警官がやってきて、「駐車場の車の後部ウインドウを割った犯人が、この事務所に入ったという匿名の通報があった」といわれ、現場に連れて行かれた。やっていません。シャレにならない。そのうち、なにかで逮捕されるのかもしれないな。まあ、撃ちませんけれどね。その前に撃たれるでしょう、どちらかといえば。

自分は、社会的ポジションが適当な存在であることは認めるがね。今後、歳を重ねるにつれてますます世間的な風当たりが強くなってくるのかと思うと、ちょっとうすら寒いね。そうだ、師匠がどんな社会的迫害を受けているか参考に聞いてみよう。

南「最近さぁ、駅前の喫茶店に行くと、ちょっと嫌がらせされるんだよ。目の前にある新聞とか雑誌を、わざとらしくサッサと片づけられてね。どうも『はやく出ていけ』っていう感じで……」

蜂「ああ、身なりで判断されたんですかね」

南「かもね」

蜂「ボクら身なりその他、ホームレスと区別ないですからね」

南「まあね」

蜂「でも、腹立ちますよね。客なのに」

南「うん、悔しいから、ここんとこ毎日行っている」

……そりゃ、逆の意味で嫌がらせだよ。ああ、楽しい。まあ、私たちは将来的に商売で大儲けするつもりでいるから、師匠とふたりで一生懸命ビリケンさんを拝んでおる。キミも、拝んだらええ。

さて本論だが、片桐操が田所康雄巡査に発砲してからまもなく、谷山幸広(二十七歳)・菅原紀雄(二十三歳)の巡査二名がパトカーで現場に到着した。そこで倒れている田所巡査を発見し、ふたりはパトカーから降りる。その刹那、警察官のズボンをはいた片桐が、拳銃を片手に草むらから飛び出してきた。片桐は、谷山巡査の脇腹に銃口を向けながら「ピストルをよこせ」と命令。そしていきなり、無抵抗だった両巡査の腹部めがけて一発ずつ発射してしまう。片桐は、逃走した。

腹部を撃たれた菅原巡査は、重傷を負って倒れる。ひどい出血が続く。一方の谷山巡査のほうはバンドのとめ金に弾が当たり、跳ねかえったため、奇跡的に無傷であった。(つづく)

MONTHLY ESSAY

四方田犬彦の犬も歩けば

VOLUME:110

イラストレーション●やまだ紫

鏡花と日本映画

4月3日 香港／東京

香港の啓徳空港でイアン・ブルマの新著を見つけ、読みながら東京まで帰る。ルシュティと吉本ばななを論じている。彼には3年前、オルレアンの映画祭で会ったことがあった。TVで白井佳夫が喋る科白の物真似が上手だった。

帰宅して、パリでドゥプレ法がついに可決されてしまったという知らせを受け取る。これは非ヨーロッパ人がフランスで人の家に宿泊する時には必ず前もって役所に届け出、家を退出した時にも同じ手続きをしなければならないという、信じ難い人種差別の法律である。もちろん対象としているのはマグレヴ人やアフリカ人の締め出しなのだろうが、これでもし日本人が逮捕されてしまったら傑作なことになるだろう。パリは観光収入に大きな打撃となるだろう。誰か勇気のある、野心的なフランス研究家が試してみるといい。国際的にフランス語の威信が低下して久しいが、ますますこの国は駄目になっていくような気がしてならない。

4月5日

到着したばかりの「文藝」にピアソラがギル・エヴァンスについて語っている記事が載っていて、それを読むとどうやら再晩年のギルは前妻から送られる月に五百ドルで生活していたらしい。狭いアパートには寝台と小さなキーボードしかなかったという。87年のことだから、ぼくがNYに住んでいた頃で、あの頃はスイートベイジルの前を通ると、月曜日はギル・エヴァンス・オーケストラと黒板に書かれてあった。実際に演奏が行われたことはなく、つい見逃してしまったのが残念だ。

4月6日

かつて小沢書店に勤めていた大野陽子が、鎌倉に新居を構えたからお花見にいらっしゃいと誘ってくれる。あいにくの雨だったが、扇が谷の浄光明寺をさらに奥に入った所にある、古ぼけた平屋の洋館だった。家に通されてしばらくして、そこが生前に中村光夫が住んでいた家だと分かる。不動産屋から、なんでも考古学者の家だったそうですよといわれ、手入れをすれば住めないことはないでしょうがという口調で案内されたそうだ。１９３０年代のはじめに洋行帰りの金持ちの画家が建てた家で、中村が戦後再婚して住んだらしい。中央に32畳の応接間があった。大野陽子は半年前に、当時まだそこに住んでいた未亡人に気に入られ、何百冊という蔵書やら資料やらをそのままにして、ともかく家を買ってしまった。なるほど奥の書斎には昔のジイド全集やら、本人の全集やらがびっしりと並んでいる。こないだも、ほら、こんな物が発見されたのよと彼女が新潮社の封筒を見せてくれる。開けてみると、一万円札が15枚入っていた。おそらく何かの文学賞の選考が終わった後の、お車代か何かだろう。他にも色々な人からの書簡がゾロゾロ出てくる。

4月12日

国立劇場に新派公演の『天守物語』を観にいく。天井の狭い空間でこうした幻想趣味の舞台を創造すること自体が無理で、以前にゼゾン劇場で観たものより数段つまらないという感想。とりわけ音楽が60年代の東映時代劇映画調で、一瞬パロディかと勘違いするところだった。水谷八重子二代目の声は世話者にはいいが、富姫のように神秘的な深みを要する役には、およそ不適当だろう。そのあと関口涼子を誘って石神井に住む料理研究家の森枝草士を訪れ、彼が最近ハマっているというオーストラリア・ワインを呑ませてもらう。

4月13日

鶴見俊輔と日本青年館の廊下で対話。

「ある人が何語でものを考えてきたかを考えることが大事だ。小さな物事と、大きな物事を、果たして同じ言語で考えていたのかどうか。たとえば私は今でも、小さな物事は日本語で考えているが、大きな物は英語になってしまう。それからある物事は、書くことによってかえって失われてしまうことがある事を、覚えておかなければならない。書かずに生の体験のままに留めておくと、逆にそれが身体的に記憶されていて、思いがけないところで新しい体験を呼び起こしてしまうということがある。」それから最後に彼は強調する。「大学は諸悪の根源だよ。

あそこにいつまでもいると、本当に馬鹿になってしまうよ!」

4月15日
民族学博物館の野村雅一に雑誌「みんぱく」のため、インタヴュウされる。活動弁士のことを一時間ほど話す。
新学期の授業は、外国映画研究が昨年の続きで「68年と映画」。日本映画研究は前半が『婦系図』、後半が『忠臣蔵』を取り上げるつもり。68年研究では、ブルジョワ家庭に生まれ育って、スイス国籍のためフランスの徴兵を逃れたゴダールと、ひどく貧しい不幸な家庭に生まれ、高校を出た後兵役でインドシナまで行って精神に異常をきたしたトリュフォーの二人が、五月以後、どのように別々の道を歩み出したかを、考えてみたいと思う。

4月17日
韓国日報の記者で漫画評論家でもある金(キム)移浪(イラン)が到来する。僕の『漫画原論』の翻訳は大方終了し、後は個々の図版の版権をクリアーするばかりとなったという。真面目そうな、小さな声で語る人だった。「ガロ」のことをインタヴュウしたいというので、青林堂に電話をし、手塚能理子に会ってもらうようにお願いする。
夜はPARCO劇場にミュージカル『ヘアー'97』を観に行った。僕が30年前にオーディションをうけて落ちた寺山修司が、そもそもは脚本を担当していた作品だ。最も観客の大多数は別所哲也ファンの若い女の子で、最後の方になるとひどく孤独な気分になった。深夜、スイスにいる海藤和に電話をするが、むこうは昼下がりで、今から子供をソルフェージュに連れて行かなければと、電話を切られてしまった。30年前に『ヘアー』の舞台で「フランク・ミルズ」を歌った彼女も、今ではすっかり凡庸な母親になってしまったのかと、時の推移を思う。

4月19日
シアター・コクーンに蜷川幸雄の『草迷宮』を観に行く。岸田理性は『沼夫人』から『陽炎座』まで、多くの鏡花作品の断片を縫いあわせながら、ザ・鏡花とでもいうべき脚本を書き上げた。浅丘ルリ子の声はいつまで経っても変わらない。ただ、どうも蜷川には、退屈に耐えられないという不幸なオブセッションがあるようで、次々とスペクタクルが休みなく続くので、全体としてひどく平板な印象だけが残ることになる。もう20年ほど前になるが、彼が出演し、ジュリーと伊藤雄之助が沢山の小人達と共演した『滝の白糸』は、あんなにすばらしかったというのに。

4月22日
日本映画研究会の第一回会合を開く。参加者は十人ほど。昨年、アイオワ大学で博士号を受けたアーロン・ジェローが、1910年代の日本における「純粋映画運動」について、ジジェックに理論的枠組みを借りながら一時間ほど話す。日本で製作されている映画が「日本映画」というナショナリスティックな自己同一性をもつに至ったきっかけは、早川雪舟に代表されるハリウッド映画の中に表象されている「日本」に対する違和感であったという話。つまり他者の眼差しと言説とを経過することによって、初めて日本映画が成立したという趣旨となる。ラカンの鏡像段階にも似たこの手の経緯は、たとえば西洋向けの伝統美術のカタログに初めて英文で「日本美術」という文字が記された瞬間を待って、日本美術という自己意識が成立したという事実を連想させる。もっともこうした文脈の中に現れるのは、どこまでもエリート文化の言説の中に浮かび上がる「日本映画」であって、目玉の松ちゃんの映画にはどうやっても到達しないだろうという印象もある。アーロンの発表の後、小松弘、千葉伸夫、牧野守といった面々から意見と質問が続いた。研究会としては、まずまずの出だしだったといえるだろう。

4月23日
日本時間で朝方、フジモリがリマの日本大使館公邸に特殊部隊を突入させて、トゥパック・アマルの全員を射殺し、人質を救出したという知らせを知る。人質達は120日以上にわたる監禁生活のためか、誰もが髭を伸ばしていた。彼らが解放された後、本当に自由な立場からメディアに発言することが出来ればいいが、もし日本の外務省や企業からある種の箝口を要求されたとしたら、それこそ今度は国家と企業の人質となってしまうだろう。そうならないことを祈りたい。

唐沢俊一のスポンティニアス・コンバッション

Spontaneous Conversion――脳天爆発!!

VOLUME 19――「ヒロポン（広末涼子ではない）」

覚醒剤中毒、などと聞くとなんと恐ろしい、と思うでしょうが、これを〝ポン中〟と言い換えると、どことなくユーモラスで、親しみを覚えます。かつて、そんな親しみを込めた呼称がなされたほど、日本はポン中、つまりヒロポン常用者にあふれた、ヒロポン王国でした。日本の戦後を語るとき、ヒロポンというものを避けては通れません。今日はこのヒロポンのことを勉強してみましょう。

都々逸・俗曲で有名な柳家三亀松（先代）は、国民的芸人、と言っていいほどの人気者で、なんと国鉄がフリーパスだったというほどの人ですが、この人は重度のポン中でした。なにしろ、小ビンなどで買わない。密造ヒロポンを一升瓶に入れて持ち歩き、知合いなどが分けてもらいにくると、

「オウ、何合打つ？」

などと聞いたそうです。文字どおりマスではかるほどヒロポンを愛用していたわけですね。映画監督のマキノ正博氏もこのポン中で、映画を撮影するとき、

「ヨーイ！」

と言って、さっと腕を横に出す。すると、助監督がサッとその腕にヒロポンを打つ。そこで

「スタート！」

となったとか。袖などまくらないでも打てるよう、マキノ監督のシャツの袖には、注射用の四角い窓があけてあったというからイヤハヤです。喜劇王エノケンもやはり、これなしではいられなかったということで、舞台でチャンバラをやって、わざとダーッと大げさに倒れて、舞台奥の幕の下に腕を差し込む。すると、そこに注射器を持って待っていた弟子が、サッと打つわけですね。で、また、ハネ起きて芝居を続けたというんですからひどいものです。彼は雑誌にも平気で、笑いながらヒロポンを注射している写真などを載せたというから、スゴい時代でした。

かくの如く、芸能界、映画界、さらに音楽界、小説の世界に至るまで、ヒロポンは戦後の昭和二十年代、猖獗をきわめました。逆に言えば、戦後、躍進した映画や小説誌などのブームは、みなヒロポンに支えられてのものであったわけで、ヒロポンは名作の生みの親とも言える？

ところで、このヒロポン、正式名称は硫酸メタンフェタミンと言います。ヒロポンという名は、「疲労をポンと捨てる」という意味である、という説と、「ギリシア語で労働を意味する言葉からとられた」という説の二通りがあります。ちゃんとした薬品事典でも本によって違った説が記載されているところから見ると、もう語源など誰も覚えていないようです。

発明者はなんと日本人でした。漢方薬の原料である麻黄という植物のエキスから、ぜんそくの薬にもなる塩酸エフェドリンという薬が精製され、それを原料にして化学反応させることによってヒロポンになります。ドイツで覚醒作用が確認され、最初はアメリカで鬱病や嗜眠症の治療薬として使用されましたが、戦争になると、日本軍はこれを前線に出る兵士に恐怖を忘れさせる薬として用いさせました。

そして、終戦と同時に、ポン中となって復員した兵士たちによって、アッという間に日本全国にヒロポンは蔓延したのです。注射が有名ですが、もともとは飲み薬で、当時は小学生までもが勉学の助けに、とこのヒロポン錠を買っていたとか。

このように常用者が低年齢層にまで及んでいるのがヒロポンの特長でした。昭和二十五年に逮捕された二十歳以下の少年犯罪者中、ヒロポンの乱用が原因で犯

罪を犯したものの数は実に二千九百二名にのぼり（うち男二千三百八十四名、女五百十八名）、しかもそのうち十歳以下が五名、十一歳二十八名、十二歳七十名、十三歳百二十一名と、年少者の犯罪が顕著になっています。

ヒロポン常用者に犯罪が多いのは、服用することによって意欲がなくなる麻薬と違い、刺激性の覚醒剤であるが故に行動能力があるから、犯罪の発揮がより容易になる、ということがあげられます。純粋に薬効のみを楽しみたいという者の中には、麻薬のナルコポンとこのヒロポンを両方服用して、その拮抗する作用を楽しむ、という者も多かったようです。今、はやりのスピードというヤツですね。最新流行のように見えて、そのルーツはもうこの時代からあったわけです。

本来、ヒロポンの作用時間は経口で4時間くらい、注射でそれよりやや短いくらいなのですが、連用していると体に耐性ができ、すぐ効かなくなるので量が増えます。冒頭にあげたマキノ監督やエノケンの場合は、かなり耐性がついてしまっていると言えましょう。

ヒロポン中毒とは具体的にどんなものか。手記をちょっと引用してみましょう。二十一歳の鳶職人。

「鳶職の兄貴分の春さんにヒロポンの注射を初めて教わったのは一昨年の一月でした。その日は寝なかったので眠くて仕方がなく、春さんがすーっとするから打ってみろと言うので、嫌と言ったけど皮下に打ってもらったらすーっとしたんです。打ったらおしゃべりになって、それからずっと打って貰いました。花をやる（注・花札バクチをやる）ので眠くては困るのです。

一月もたつと自分で打つようになり、それも皮下では効かないので血管に打つようになりました。するとすぐ効いてすーっとなるんです。多い時は一日に五十本くらい打ちました。苦しくて一時はナルコポンも打ちました。

（中略）松沢病院（注・精神病院。この談話者は中毒でここに強制入院させられた）を出てからは、一日ひと箱くらい打っていました（注・全然治っていない。なんで退院させたのか）。ナルコポンの方はすごく上がっていた（注・闇値段のこと）ので打たずに、白いのをのみました（注・おそらくヘロインのことだと思われる）。ナルスコ（注・スコポラミン）を五ミリグラムくらいヒロポンと混ぜて打たせてもらいました。

（中略）人を見ると刑事だとか、こうやっていると戸が開いてきたり、松の木が人に見えたり、じっとしていてもいいことは聞こえて来ずにバカ野郎と聞こえたり映画館に入っても音楽だとか映画だとかが私の悪口を言ったりするので暴れて右の腕を怪我したこともありました。

去年の六月ころから、もうずーっとで今でもまだチョイチョイ聞こえます。人がウス馬鹿だとかボケていると噂していると思ったし、私が注射打ってるので意地悪やイヤミをされているように思って、近くに行ってみると普通の話をしてるけど向こうに行くと、また悪口を言うのです（注・関係妄想）。また天井が動いたり電気の球がゆれたり、人が殴ろうとするからなんでもなくてぶん殴っちゃったりしました（注・被害妄想）。何にもいないのに虱だと思ってズボンを切っちゃったこともあります（注・ヒロポン中毒に多い幻視）」

（自由国民社「犯罪と性不安をふせぐバイブル」1951より）

なんとも困ったものですが、しかし、ポン中だった人に聞くと、中にはまがいものもだいぶ出回っていたそうです。重度の中毒になると、耐性が強くなっちゃっているから、まがいものでも気がつかないんだそうで。

冒頭にあげた三亀松師匠の、一升瓶入りのヒロポンも、やはりまがいもので、いや、まがいものどころか、単なる生理食塩水だったというから、笑えます。

自分の打っていたのが塩水だったと聞かされた三亀松師匠、平然として

「道理で、打つとしょっぺえ汗が出た」

ンなもん、打たなければいいものを、と思うのは、こっちがヒロポンのよさを知らないからなのでしょうか。〆切がせまると、ああ、ヒロポンが欲しい！と思いますが。

URL:http://www.garo.co.jp/karasawa

オンラインマガジン「デジタルガロ」内・唐沢俊一公式HP、『書痴快楽園』OPEN準備中！
ファンレター・怪情報タレこみ他何でもokの伝言板はすでにOPEN！

来月号よりスタート

つりたくにこと楠 勝平──人と作品

「目の前を、どのように大量のマンガが通過しようと、血の流れにしみこんでくる作品には関係ない」
石子順造
(『楠勝平作品集』解説より)

今月号よりしばらくの間、ほぼ創刊直後からガロに作品を発表し、若くして病没した二人の作家の人と作品を振り返る特別企画をお送りする。つりた、楠、両作家の作品とも現在は絶版となっていて読むことが出来ず、特に最近になってガロを読みだした読者の皆さんには「つりたくにこ」も「楠 勝平」も馴染みのない名前だろう。

長井勝一も事あるごとに口にしていたこの二人の作家の作品集が今年中には小社より刊行予定である。現在は、散逸してしまった資料や原稿探しの段階だが、それに伴い、関係者各位のご協力を得てインタビューも同時に行なっている。この連載では新たに発見された未発表作品や資料を検証しながら、作品世界の紹介に留まらず、各々の作家のパーソナリティにも迫りたいと思う。残された作品が一番重要なのは言うまでもないが、創作半ばにして亡くなった二人の歩みを振り返り、同時に作品集として編むことで二人の創作活動を補完するのも今回の狙いである。リキを入れて望むのでよろしく(尚、当企画の連載中は「小さな巨人」は、来月号の「凡天太郎インタビュー」を除いて基本的に休載となります)。

つりたくにこ「ガロ」掲載作品

〈発行年月号　作品名（頁数）〉

65年9月　人々の埋葬／神々の話（8P）
66年3月　風と共に去りぬ（7P）
66年4月　狭き門（18P）
66年5月　福の神（23P）
66年7月　レ・ミゼラブル（11P）
66年8月　所行無常有響（15P）
66年10月　ナンセンス（16P）
66年11月　女（24P）
66年12月　こんな話（17P）
67年2月　アンチ（12P）
67年3月　生きるための闘争（12P）
67年4月　あがき（10P）
67年7月　ジンロク（16P）
67年8月　六の宮姫子の悲劇（15P）
67年9月　それから／続・李さん一家（12P／※PN＝つぎ宛春）
67年10月　栄光への脱出（19P）
67年11月　狂人日記（16P）
68年2月　マダム・ハルコ①悪徳の不幸（26P）
68年3月　マダム・ハルコ②美徳の栄え（24P）
68年5月　マダム・ハルコ③宇宙人国旅行記（35P）
69年3月　音（13P）
69年6月　溝（15P）
69年7月　壮烈無土国血戦記〈上巻〉（24P）
69年8月　壮烈無土国血戦記〈下巻〉（32P）
70年1月　アルマジロ（13P）
70年7月　災難（16P）
70年12月　彼等（「ガロ増刊つりたくにこ特集」／49P）
71年8月　スケッチ（12P）
71年12月　ジャムの壺（19P）
74年4月　僕の妻はアクロバットをやっている（14P）
74年5月　ロビンソンクルーソーの7度目の漂流（13P）
74年7月　MONEY（18P）
74年10月　憂子の日々（16P）
74年11月　空は青空雲一つ（7P）
75年1月　MAX（26P）
76年12月　トン、トン、お姉さん…（10P）
79年4月　墓（2P）
79年6月　巡礼（9P）
79年7月　夜（18P）
79年8月　ある亀の話（6P）
79年10月　作人（29P）
80年7月　おにごっこ（17P）
80年12月　海蛇と北斗七星（12P）
81年2／3月　アール（8P）
81年4月　ディオゲネス（19P）
81年5月　極寒（22P）
81年7月　達人（4P）
81年11月　帰路（7P）

※つりたくにこ氏の作品のうち、以下のものが不明です。ご存じの方は青林堂・浅川までご連絡下さい。
●貸本誌「風車」（若木書房）に「はざまくにこ」名義で掲載された作品のうち、「風車」60号以外に載ったものとその原稿●「少女フレンド」掲載の4コマとその原稿●69年頃双葉社のマンガ誌に載ったものとその原稿

楠勝平「ガロ」掲載作品

〈発行年月号　作品名（頁数）〉

64年10月　仙丸①（11P）
64年11月　仙丸②（10P）
64年12月　仙丸③（10P）
65年2月　仙丸④（15P）
65年3月　仙丸⑤（15P）
65年4月　仙丸⑥（15P）
65年6月　仙丸⑦（15P）
66年10月　名刀（17P）
66年11月　いざかや（13P）
66年12月　おせん（24P）
67年1月　殿さまとざらざらした味（19P）
67年2月　喧嘩（12P）
67年3月　鎧（9P）
67年5月　冷たい涙（12P）
67年6月　参加（25P）
67年7月　どろ棒とこん棒（13P）
67年9月　茎〈前〉（26P）
67年10月　茎〈後〉（25P）
67年12月　赤水〈前〉（27P）
68年1月　赤水〈後〉（31P）
68年5月　臨時ニュース（34P）
69年7月　チェッ（24P）
69年10月　石匠（36P）
70年1月　盗っ人（46P）
70年5月　大部屋（36P）
70年9月　暮六ツ（31P）
71年2月　あらさのさぁー（14P）
71年4月　まめ（21P）
71年6月　梶又衛門（27P）
71年9月　ぼろぼろぼろ①（21P）
71年10月　ぼろぼろぼろ②（20P）
71年12月　ぼろぼろぼろ③（17P）
72年1月　ぼろぼろぼろ④（16P）
72年3月　ぼろぼろぼろ⑤（16P）
72年4月　ぼろぼろぼろ⑥（16P）
72年5月　ぼろぼろぼろ⑦（16P）
72年6月　ぼろぼろぼろ⑧（16P）
73年1月　山ちゃんが死んだとさ（11P）
73年2月　ある男（9P）
73年3月　彩雪に舞う……（28P）
73年5月　鬼の恋（10P）
73年6月　とし（14P）

※楠勝平氏の作品のうち、以下のものが不明です。ご存じの方は青林堂・浅川までご連絡下さい。
●『おたふく殿』（72年）の初出誌●小学館の学習マンガのカット…初出本と原稿●作品「めくらのはなし」「達磨さん達磨さん…」「風と風」「はあーはあーはあー」「放免船はやってきた」「やすべえ」「蝶を見た！」「ぐれん」「あね」「おたふく殿」「錦を飾れ」「とも……」「しまい風呂」「ふたり」「初夏のひびき」の原稿…以上の原稿は古書店などで売られている可能性があります。初出誌の印刷状態が良くないため、印刷からの復刻は難しい状態です。原稿をお持ちの方、ご一報頂けると非常に助かります（「やすべえ」の原稿は数年前に古書店の写真目録で売り出されていました）●入院中につけていた日記

5月号「小さな巨人」についてのお詫びと訂正

「ガロ」5月号「小さな巨人」のリード部分について、『戦後の貸本文化』（東考社）などの著書で貸本文化研究家としても知られる評論家の梶井純氏より、貸本漫画の最盛期についてご指摘を受けました。特にマンガ研究者には参考にもなるかと思われますので、ここでその経過を報告し、お詫びと訂正に替えさせていただきます。

ご指摘を頂いた部分は5月号248頁1段目、長井勝一・桜井昌一対談のリード部分の編集部による説明文のうち、桜井氏の発言について言及した部分で、「尚、文中に貸本漫画の最盛期が『昭和三十一、二年』という記述がありますが、『忍者武芸帳』が出たのが昭和三十四年なので『三十五年ぐらいからも う衰退を始めた』という記述と共におそらく発言者の勘違いと思われます。但し今回は敢えてそのまま収録しました」という箇所になります。これは青林堂・浅川が対談再録にあたり加えたものです。

編集部のこの記述は「彷書月刊」87年6月号「特集　貸本マンガの時代」の権藤晋氏の文章「白土三平の表現性」における、『幻の貸本マンガ大全集』初出時の長井・桜井対談の発言に対する指摘をソースとしたもので、文中で権藤氏は梶井氏の著書を例に挙げたうえで貸本マンガの黄金時代を「六〇年をはさむ前後一、二年」と定義しています。

編集部のコメントに対する梶井氏の指摘は「貸本マンガが一九六〇年ごろから衰退に向かうのは、当時の資料、当時の体験からみてたしかなのです。（中略）実際には、貸本マンガの点数こそ急激にへったわけではありませんが、質的にも後退し、部数はどんどんへっていったというのが六〇年以後の様相です」というものでした。

編集部では先の権藤氏の指摘を梶井氏に伝え、両者間において一応の見解を得ましたのでここに挙げておきます。

まず、「貸本マンガの最盛期」という言葉をどう定義づけるかによって時期的なズレが起こってくるという問題。最盛期を、発行されたマンガの質で考えた場合、『忍者武芸帳』を始め、『黒い傷跡の男』や平田弘史、つげ義春の諸作品が生み出された60年前後を「最盛期」とすることに無理はないように思われます。権藤氏の指摘はおそらく最盛期をこの意味で捉えていると思われます。次に「最盛期」を発行部数も含めた貸本業界全体として捉えた場合、時期は微妙に変わってきます。59年から発行され、貸本業界でヒットした白土三平氏の『忍者武芸帳』の発行部数は六千～七千部。この部数は60年当時としては多いのですが、逆にいえば他が落ち込んでいたために、『武芸帳』のヒットが作品的な質の高さも相俟って実際以上に突出して見えると言うことも出来るわけです。実際、56、7年の貸本マンガはそれ以上の部数が発行されていました。長井・桜井対談でも言及されている通り、初期の「影」などのいわゆる貸本誌の部数は八千部という資料もありますので、業界全体の貸本マンガの流通量で見た場合、「最盛期」は56、7年で正しいということになります。

ここで問題になるのは、長井・桜井対談において「貸本マンガの最盛期」という言葉がどちらの意味で使われているかという点になりますが、これについては対談を良く読むと両者とも貸本マンガ業界として語っていることが了解されます。つまり、対談中の桜井氏の発言は正しいと考えていいでしょう。したがって、冒頭の編集部側によるリード部分は誤りです。ただ、権藤氏の指摘からも分かるように、「貸本マンガの全盛期」については専門家でも誤読しかねない二つの意味あいがあるということは、マンガについて研究しようとする方も認識しておいて損はないと思います。

さて、梶井氏からもう一つの問題として指摘された点は、中立性を持った解説的なコメントで個人的な見解を述べることが適当かどうかですが、この点に関しては今後個人的見解を述べる際には基本的に記名原稿といたします。

（浅）

書店紹介　其之十七

千葉

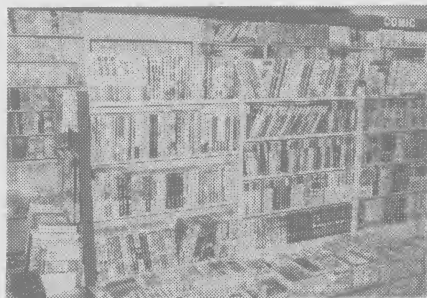
海水浴にどうぞ、ピーナッツもおいしいよ の巻

○Bee-One三省堂書店
●千葉市中央区富士見2・3・1 Bee-One6F
☎043(224)1881

▲Bee-One三省堂書店。担当津久井さん。

千葉一のコミック在庫数を誇るBee-One三省堂書店。同じビルにヨドバシカメラが入っているせいか、男性のお客さんが多いそうです。実はこちらではお客さんに言われて青林堂の本も置いていただけるようになったそうで、そういったお客様の御意見も参考にして品揃えをされているそうです。出来て2年目になり、千葉近郊のコミック好きの方々には頼もしいお店になっています。

そしてなんと**6月7日から7月6日まで青林堂コミックフェア&原画展**が行なわれます。**逆柱いみり、山田花子、QBB**の各氏の原画が飾られ、Tシャツなどの**青林堂グッズ**の販売もされますので、グッズは欲しいけど通販で申し込むのがめんどくさいという方は、是非この機会に訪れてみて、本と一緒にグッズ等も買ってみてはいかがでしょうか？　逆柱いみり氏他、の**サイン本**もあります。

○多田屋セントラルプラザ店
●千葉市中央区中央3・17・1セントラルプラザ5F
☎043(224)1333

千葉の老舗ビル、セントラルプラザ(通称センプラ)の多田屋は、近くに県庁がある関係もあって専門書、教育書、人文系の本が充実しています。学生さんもよく訪れる書店です。品揃えは他の書店との差別化をはかるために細かく取り揃えているということで、確かにかなり幅広くコミックも揃っています。青林堂コミックの品揃えもかなり充実していますので、買い物のついでにどうぞ。

▲多田屋セントラルプラザ店。

○千葉パルコ改造社書店
●千葉市中央区中央2・2・2千葉パルコ7F
☎043(225)3933

通学、通勤帰りの女子高生やOLで賑わうファッションビル「PARCO」。7Fにある改造社書店のコミックコーナーでは、数カ月おきに平台でフェアをしていて、以前には、山田花子さんの本などの青林堂の本もしていただきました。

▲千葉パルコ改造社書店。

○BOOKSワールド新検見川店
●千葉市花見川区花園2・6・1西友新検見川店5F
☎043(296)1577

JR線新検見川駅すぐ横の西友5Fにあり、西友にお買い物に訪れた子供連れの方から、中学生、高校生、通勤帰りのサラリーマンと幅広い年代のお客さんが訪れるお店です。千葉にはマイナーなものを扱うお店が少ないので、少しづつそういった商品も扱って行かれたいそうです。

▲BOOKSワールド新検見川店。

○芳林堂書店津田沼店
●船橋市前原西2・18・1津田沼Let's4F

☎0474（78）3737

PARCOから隣のビルLet'sに移ってリニューアルオープンした芳林堂は、総売場もドーンと広くなり、コミック売場はなんと以前の2倍になりました。ストックも増えたということもあり、今までスペースの都合で揃えられなかった既刊本も充実しています。駅のすぐそばということもあり、40代くらいまでの幅広いお客さまが訪れています。

▲芳林堂書店津田沼店。

○紀伊國屋書店柏店
●柏市柏1・1・11
MARUI-FiRST8F
☎0471（62）3883

JR線、千代田線、東武線の交差する柏駅そばの丸井に昨年2月にオープンした紀伊國屋書店柏店は、高校生からOLが多く立ち寄るお店です。コミックコーナーは少ない棚数ながら個性的な品揃えをされています。

▲紀伊國屋書店柏店。

○堀江良文堂書店松戸店
●松戸市松戸1225
☎0473（65）5121

こちらもJR線、千代田線、新京成線のある松戸駅東口のビルにある堀江良文堂書店。6Fのコミックコーナーでは、近くに女子短大があることもあって、女性向けの品揃えをしているそうです。3Fではサブカルチャー系の本も揃っていて、はずかしながら、小社の本も並べてあったこともありました。

▲堀江良文堂書店松戸店。

フェア情報

リブロ梅田店
大阪市北区茶屋町16・7梅田ロフト7F
☎06・359・3276

昨年に続き、更にパワーアップした大青林堂フェアを6月5日より開催！　コミック、ガロバックナンバーを始め、Tシャツなどグッズ類も揃います！　7月初旬までの期間中はサイン本なども青林堂から直送便で連日補充。サインしたてのホヤホヤが不定期に届きますので、こりゃ毎日チェックするしかない！　尚、千円以上お買い上げのお客様には懐かしの駄菓子屋グッズプレゼントもあり！　関西のファンはリブロに集結すべし!!

イケヤ文楽館磐田東店
静岡県磐田市富士見台8・32
☎053・452・5520

6月5日より個性派コミックフェアとして青林堂のコミックは勿論、Tシャツなどのグッズ類も扱います。グッズ類は数に限りがありますのでお早めに（7月まで）。

●

お詫びと訂正

先月号で紹介させていただいた書店名の訂正をいたします。
○有隣堂イセザキ店は有隣堂本店
○有隣堂トーヨー地下店は有隣堂横浜西口店トーヨー店
が正式な名称となります。ご迷惑をおかけいたしまして、誠に申し訳ございませんでした。

青林堂コミックを通販で買ってみよう

①青林堂コミックや、ガロのバックナンバーなど、小社出版物を手に入れたいという方は、お近くの書店さんに注文して頂ければ、大概手に入ります。

②しか〜し「外に出るのが面倒くさいっ」「書店さんが近くにない」「万引きが見つかって、書店に出入り禁止となった」等の、事情をおもちの読者の方には『通販』っというテがあります。

③悲しいかな、4月から消費税が5%になり、小社の本も**価格が改正**しております。通販御希望の方は『出版物一覧表』のページで本の代金をご確認いただき、**送料**を添えて**現金書留**か**受取人無記名の現金為替**でお送りください。**送料は何冊でも一律500円**です、一気にまとめ買いすれば、お得ですよー！

④通販のお申し込みは
〒151　東京都渋谷区初台1・47・1小田急西新宿ビル802　㈱青林堂通販係
までどうぞ。
尚、新刊や、在庫の少ない商品は多少お時間戴く事もありますのでご注意下さい…。

青林堂出版物一覧表

※印のある書籍は品切れ中。著者名50音順です。直販の際にややこしいので、ここでは全て**5%税込み価格**で表示してあります。

▼東　元
- あなたに ¥897

▼安彦麻理絵
- メロドラマチック ¥999

▼井口真吾
- Ｚちゃん ¥1529

▼石川次郎
- みぃんなじろうちゃん ¥893

▼泉昌之
- 豪快さんだっ！ ¥999
- ※かっこいいスキヤキ(改訂版) ¥1223

▼イタガキノブオ
- ペーパーシアター ¥1020

▼内田春菊
- ※春菊（改訂版） ¥999
- シーラカンスロマンスⅠ ¥846
- シーラカンスロマンスⅡ ¥846
- 闇のまにまに ¥897
- ※南くんの恋人(新版) ¥764
- ※しあわせのゆくえ ¥897
- ※凛（りん）が鳴る ¥897
- ※愛のせいかしら ¥1223

▼蛭子能収
- ※地獄に堕ちた教師ども ¥897

▼大越孝太郎
- ※月喰ゥ蟲 ¥999

▼岡本蛍＆刀根夕子
- おもひでぽろぽろ① ¥927
- おもひでぽろぽろ② ¥927

▼鴨沢祐仁
- クシー君のピカピアな夜 ¥1890

▼唐沢商会
- ※脳天気教養図鑑 ¥999
- 近未来馬鹿 ¥897
- ※ZORO ZORO ¥999

▼ＱＢＢ
- 栄三＝金星人説 ¥897
- とうとうロボが来た!! ¥999

▼高信太郎
- 頭痛にコーシン ¥897

▼近藤ようこ
- 妖霊星 ¥999
- HORIZON BLUE ¥897
- 猫っかぶりゼネレーション上 ¥918
- 猫っかぶりゼネレーション下 ¥918

▼逆柱いみり
- 象　魚 ¥999
- 馬馬虎虎 ¥1155

▼桜沢エリカ
- ※チェリーにおまかせ！ ¥897

▼しりあがり寿
- コイソモレ先生 ¥999

▼鈴木翁二
- ※透明通信 ¥1529

▼谷　弘兒
- 薔薇と拳銃 ¥1223

▼たむらしげる
- ※スモールプラネット ¥1264

▼月岡直美
- セクシー＆ビューティ ¥999

▼津野裕子
- ※デリシャス ¥1029
- 雨宮雪氷 ¥1020

▼津山週三
- 伊丹哲次氏の優雅な生活 ¥897

▼東陽片岡
- やらかい漫画 ¥999

▼とがしやすたか
- 青春劇場 ¥897

▼友沢ミミヨ
- ※いもほり ¥999

▼とり・みき
- とりのいち ¥999
- ※とり・みきのもう安心。 ¥999

▼永島慎二
- 港野郎にきをつけろ！ ¥1264

▼魚喃キリコ
- Ｗａｔｅｒ ¥999

▼ねこぢる
- ねこぢるうどん ¥1020
- ねこぢるうどん② ¥1020

▼根本敬
- ※怪人無礼講ララバイ ¥897
- 豚小屋発犬小屋行き ¥1223
- ディープ・コリア ¥1529
- 生きる ¥999
- 生きる② ¥999

▼芳賀由香
- すっかりお客さま ¥897

▼鳩山郁子
- ※月にひらく襟 ¥897
- ＳＰＡＮＧＬＥ ¥999

▼花くまゆうさく
- 野良人 ¥999

▼花輪和一
- 赤ヒ夜 ¥999
- 猫谷 ¥999
- 月ノ光 ¥1223

▼林静一
- 未刊 pH4.5グッピーは死なない ¥2854

▼ひさうちみちお
- ※托　卵（たくらん） ¥1325
- パースペクティブキッド ¥1529
- 唄の上手な娘 ¥1020

▼日野日出志
- ※地　獄　変 ¥1682

▼古川益三
- 邪尼曼陀羅 ¥1236

▼古屋兎丸
- パレポリ ¥1325

▼松井雪子
- 東京デビュー<上> ¥897
- 東京デビュー<下> ¥897
- マヨネーズ姫 ¥1020

▼松本充代
- 青のマーブル ¥897
- ダリヤ・ダリヤ ¥897

▼丸尾末広
- 月的愛人（ルナティック・ラヴァーズ） ¥999
- 薔薇色ノ怪物 ¥999
- 夢のＱ－ＳＡＫＵ ¥999
- ※ＤＤＴ ¥999
- ※ナショナル・キッド ¥999
- 少女椿 ¥1260

▼みうらじゅん
- はんすう ¥1325
- ボクとカエルと校庭で ¥999
- ※アイデン＆ティティ ¥1223

▼みぎわパン
- ぱんこちゃん ¥897

▼三本義治
- マンガの本 ¥1529

▼山田花子
- 嘆きの天使 ¥897
- 花咲ける孤独 ¥999
- 改訂版・神の悪フザケ ¥1020

▼山野　一
- パンゲア ¥999
- ヒヤパカ ¥999

▼吉田光彦
- 夢　化　色 ¥1050

▼青林傑作シリーズ
A5版上製・税込各1264円
- だめ鬼／村野守美
- 泥沼（どぶだめ）／村野守美
- 媚薬行／村野守美
- 龍　神／村野守美
- ブルーセックス／川本コオ
- よさこい節／青柳裕介
- 白い伝説／真崎　守

マンガ以外の書籍▼

▼マーキー編集部・編
- UKプログレッシヴ・ロックの70年代 ¥3670
- UKプログレッシヴ・ロックの70年代vol.2 ¥3670
- ロング・ムーヴメンツ ¥2854

▼リミクス編集部・編
- ジャングリスト・ハンドブック ¥1427
- ハウス・レジェンド ¥1427

▼黒塚直子＆藤幡正樹著
- 宇宙人の落物 ¥1050

▼天願大介他
- 「無敵のハンディキャップ」製作ノート ¥1020

▼竹中直人他
- 『無能の人』のススメ ¥1529

ガロビデオ▼
- テレグラムガロ ¥3262
- ひさご ¥3670
- 因果境界線 ¥1835
- さむくないかい ¥3873
- 障害者はお前だ！ ¥3262
- ＡＶ魂 ¥3099

デジタルガロ叢書(CD-ROM付)▼
- ねこぢるうどん ¥2018

パソコン関連書籍▼
- SUPER KIDテクニカルワークブック (WINDOWS用CD-ROM付き) ¥4282
- ぼくらのつくるマルチメディア (MAC用CD-ROM付き) ¥2854
- ＪＧ技術 (3.5inchフロッピー付き) ¥3262
- パテンテ7日間の旅 (WINDOWS用CD-ROM付き) ¥3262
- SUPER KIDテクニカルワークブック Ver. 2.0 ¥4282

日本の現代マンガは、質的にも量的にもきわめて高度な発達を遂げ、諸外国からの関心も高まっている。しかし、実作に比して評論•研究は著しく遅れ、各種マンガ賞がマンガの実情を必ずしも反映しなかったり、ジャーナリズムのマンガ論議が的外れであったり、という遺憾な現象もしばしば見られる。このような現状を憂慮し、マンガ評論•研究の深化と拡大をはかるため、マンガ評論新人賞を設立する。　一九九二年五月一日

★宛先★〒151 東京都渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル8F ㈱青林堂「マンガ評論新人賞」係

第六回
マンガ評論新人賞募集

◆1：賞の種類と賞金

マンガ評論新人賞（五十万円）

同奨励賞（十万円）

佳作

各賞に人数の枠は設けない。また、本誌掲載の場合、賞金の他に規定の原稿料が支払われる。

◆2：応募規格

新人であること以外、年齢・性別・国籍等は一切問わない。新人とは、マンガ評論・研究の単行本を出したことのない者とする。ただし、自費出版はこの限りでない。マンガ隣接の文芸・映画・美術等の評論・研究の単行本を出したことがある応募希望者は、問合わせをされたい。

◆3：評論の対象・形式

現代マンガに対する未発表の評論・研究。種類や形式は限定せず、作家論、作品論、マンガ史研究、評論史研究、ルポルタージュ等を広く含むものとする。現代より前のマンガや外国のマンガに関するものも、現代マンガを考える上で有益なものは本賞の対象となる。

◆4：銓衡

銓衡委員会の合議による。各委員のマンガ論・マンガ観と対立する作品であっても、そのことによる銓衡上の不利益は一切生じない。

◆5：枚数・その他

四〇〇字詰原稿用紙で五〇枚前後。内容によっては二〇枚程度の作品も考慮する。ワープロ原稿も可。いずれも、日本語・縦書き、点字原稿は墨字訳を付ける。必要な図版類があれば、出典明記の上、コピーを貼付する。また、本文の後に、住所・氏名・電話番号・生年月日・最終学歴・職業を記した別紙を添える。応募は一人一作品に限る。応募原稿は返却されない。

◆6：締切り、発表

毎年十二月十日を締切りとする。結果は翌春「ガロ」誌上で発表される。

◆7：

本賞の存続

本賞の賞金および掲載作の原稿料は、呉智英「現代マンガの全体像・増補版」（双葉文庫）の印税によってまかなわれる。同書の印税発生がなくなった場合本賞の継続が中止されることもある。

銓衡委員会（五十音順）
呉　智英　村上知彦　米沢嘉博
協力「ガロ」編集部

月刊 ガロ 新人大賞
長井勝一賞
募集

大賞…賞金10万円
佳作…賞金5万円

◆月刊『ガロ』は一九六四年の創刊以来、商業的には小さな規模ながらも、常に新しい才能を発掘し、漫画における新たな表現方法を開拓し続けています。『ガロ』からデビューされた作家の方々は、漫画という枠に留まらず、映画、文学、音楽、絵画など様々な分野で活躍される方も少なくありません。

その事実を鑑みれば、我々が考える『ガロ的』という概念も、やはり単に漫画というジャンルを越えたものではないでしょうか。

◆我々は、常に新しい才能を求めています。もちろん漫画作品として優れている事はもちろん、既成の漫画という表現を越える、後の幅広い活躍を予感させるユニークで独創性のある作品を募集します。

◆商業誌に未発表であり、漫画作品として完成されているものであれば、どんな作品でも結構です。ぜひ、長井勝一賞に応募下さい。

ガロ編集部

★応募要領★

①原稿枠内サイズは、天地273㎜×左右184㎜です。枠を越えて絵柄やベタを伸ばす場合は、枠より外に15㎜以上伸ばして描いて下さい。

②原稿は黒一色で仕上げて下さい。但しうす墨は不可ですので中間色はスクリーントーンなどを使用のこと。

③ネーム（せりふ）、ナレーションなどは必ず鉛筆で記入して下さい。スミベタやトーン上にかかるネームは原稿の上にトレーシングペーパーなどをかけ、該当箇所に鉛筆で記入して下さい。

④作品の最終頁の裏に、必ず住所、氏名、電話番号を明記して下さい。（ペンネームの場合は本名）

◆年齢・性別・国籍などは一切問わない。但し外国語作品には必ず日本語訳を添付すること。

◆原稿返却希望の方は、返信用封筒に該当料金分の切手を貼付の上自分の宛先を記入したものを作品に同封のこと。返信用封筒のないものは一切返却できない。

◆本賞の募集は随時行なっている。対象は本賞宛投稿作品、編集部への持込み作品、本誌入選作品などその年度に応募された新人の作品全てである。従って、一次選考通過作品は毎年12月の本選考まで、最大で一年間預る場合がある。

◆本賞の選考結果発表は毎年『ガロ』二月号誌上で行なう。

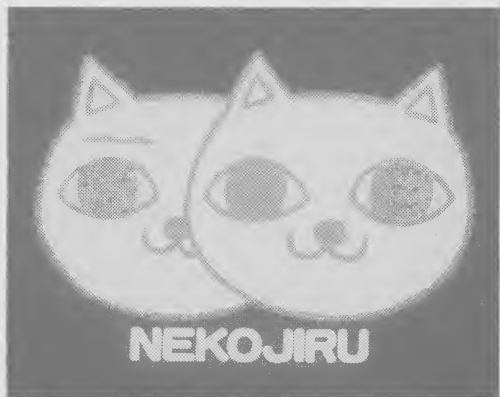
審査…ガロ編集部

〒151 東京都渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル8F ㈱青林堂「長井勝一賞選考係」

◆両賞共選考結果の発表は年一回、ガロ誌上で行ないます。お電話やお手紙でのお問い合わせは一切お断りさせて頂きます。…………編集部

「ねじ式」Tシャツ在庫僅少!!

来月は強力新作も出来ますのでお楽しみに！

ねじ式Tシャツが残り少なくなってきました。ご注文の際は必ず電話で在庫確認をお願いいたします。来月はこれまたご要望の多かった古屋兎丸のクマちゃんTシャツ（かわい過ぎる出来！）、丸尾末広の「少女椿」みどりちゃんTシャツ＆耳ナシ芳一Tシャツが登場！ メディア戦略で「青林堂Tシャツビル」建てるぞ!!

▲ねこぢるTシャツ顔（サイズSS･S･M･L）
Tシャツ地色黒に赤線と紺に青線
¥2,500（送料別）

★ぢるTのSとSSはTシャツのボディが品切れのため、発送が7月になります。

▲5月に放送された「世界不思議発見！」で大槻ケンヂも着用！ 次は同じオーケンでも大江健三郎か!?

▲たいへんかわいらしい
ねこぢるTシャツ全身（サイズSS･S･M･L）
Tシャツ地色白 ¥2,500（送料別）

「マヨネーズ姫」はっちゃんバッジもあります。各¥350（送料3個まで¥80…但しTシャツと一緒にお買い上げ頂くと送料無料）

▲セクシーバージョン ▲ノーマルバージョン

初回限定ネジ式プリント（M・L各500枚）

▲遂に登場！ ガロTの新機軸！
ねじ式Tシャツ（サイズM・L）
Tシャツ地色生成 ¥3,800（送料別）
初回限定カスタム・バージョンとして、左袖にMサイズLサイズ各々、ネジ装着後の血管が2色プリントされます。Tシャツボディもハイグレード地を使用。地色は初出時の「ガロ」本誌をイメージした生成を採用しました。初回分の制作枚数はM・L各500枚。Tシャツ本体に全て限定№が入るのに加え、一枚毎に限定№入りシート封入。初回枚数終了後の次回プレス分からは、プリントはフロントのみでTシャツの地色も白地となります。売り切れが予想されますのでお早めに。

Tシャツ申し込み用紙（コピー可）

〒

住所

氏名

電話

ねじ式Tシャツ（限定版）	M	枚	L	枚	¥
さむくないかいTシャツ	M	枚	L	枚	¥
ねこぢるTシャツ（全身）	SS	枚	S	枚	¥
〃	M	枚	L	枚	¥
ねこぢるTシャツ（顔）	SS	枚	S	枚	¥
地色 黒･紺（希望色に○）	M	枚	L	枚	¥
丸尾末広Tシャツ	M	枚	L	枚	¥
ヒヤパカTシャツ	M	枚	L	枚	¥
はっちゃんバッジ	セクシー	個	ノーマル	個	¥
月的愛人ポスター		枚			¥
+送料	一律300円			計	¥

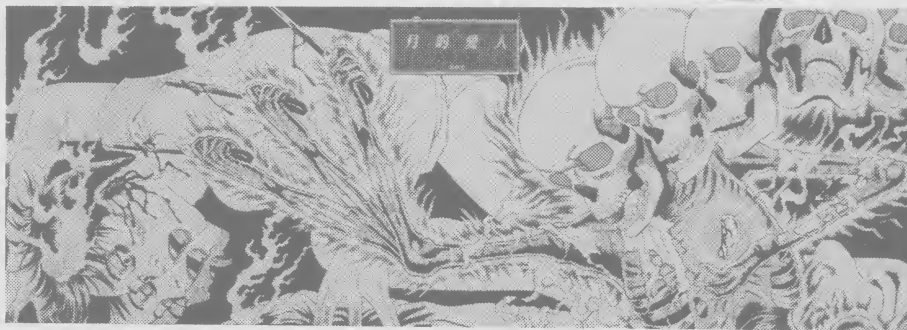
7月号

ヒヤパカTシャツ、薔薇色の怪物Tシャツは在庫なくなり次第絶版となります。急げ！

▲「薔薇色の怪物」カバー絵が妖しい
丸尾末広Tシャツ（サイズM·L）
Tシャツ地色白 ¥2,500（送料別）

▲写真は原画ですので実際とはデザイン・トリミングが異なります。

▲着ればたちまち脳味噌が溶ける
ヒヤパカTシャツ（サイズM·L）
Tシャツ地色白 ¥2,500（送料別）

▼「こんなの着るなんて信じられない」
と各方面から言われながらも
着々とロングセラーを続ける
さむくないかいTシャツ（サイズM·L）
Tシャツ地色黒 ¥2,800（送料別）

月的愛人ポスター ▶
（A2半裁サイズ）
色…2色
（スミ＆アカ）
¥600（送料別）

※ご予約頂いてから製造するものもありますので発送に多少お時間がかかります。

申し込み方法

現金書留に、代金と必要事項を記入した申し込み用紙を同封の上
〒151 渋谷区初台1・47・1小田急西新宿ビル8F 青林堂Tシャツ係
にお送り下さい（ねじ式Tシャツのみの場合は「ねじT係」まで）。

ZちゃんTシャツのご案内

1枚￥3000（送料何枚でも一律￥300）

希望の絵柄 色 サイズ 枚数氏名 住所
電話番号を明記の上、代金を郵便為替
で青林堂「ZチャンTシャツ係」まで。
商品はチューリップ・ウォーター・イン
ターナショナルから直送となります。

▲Rタイプ　カラー：水色地+白インク(M·S·ﾁﾋﾞT)

▲Zタイプ(サイズM·S·ﾁﾋﾞT)　カラー：ナチュラル地+黒インク

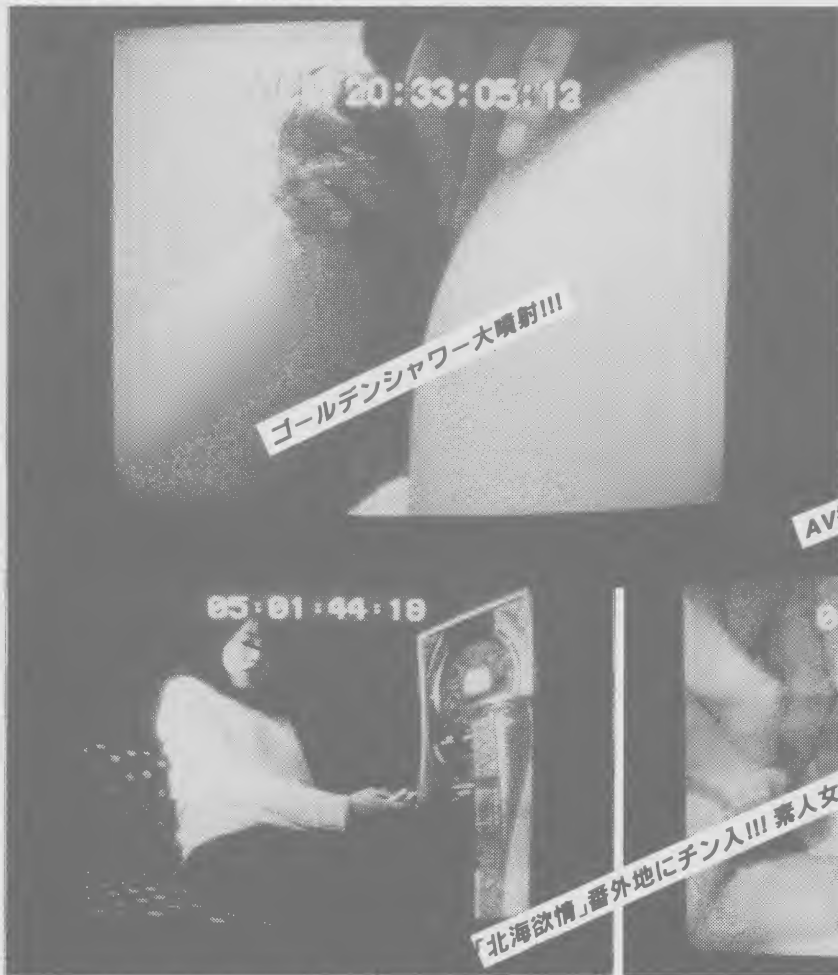
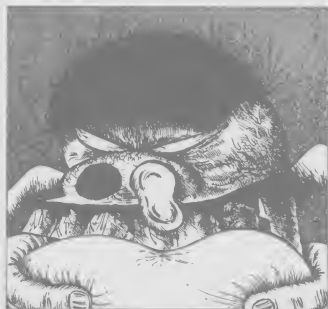
エロケンの新作!!

『AV監督・平口広美 AV魂2（えーぶいだましい2）ー北海欲情篇ー』

定価5,000円（税・送料込）／90分／HiFi-STEREO／カラー／VHS

その後の「AV魂」!!!!!!

エロ漫画家にしてエロビデオ監督の平口広美が、ビデオ片手に全国を股にかけてプライベート・エロ生活をビデオに綴る。名古屋の無垢なＯＬをＳＭの世界に誘い、雑誌の緊縛撮影にまで登場させる。騙されて裏本デビューした薄幸の美少女19才をハメ撮り。札幌ではテレクラで素人ハメ撮り２人キメル。他、原田なつみ・渡辺里緒菜。

日本全国股にかけ、今日もゆくゆくエロ親父！女体ハメ倒しの肉棒ぶらり旅！★

平口広美
ひらぐち　ひろみ

78年、月刊漫画ガロでデビュー。漫画家にしてアダルトビデオ監督、男優と、エロの世界で逆噴射大爆発するスキンヘッドの四十ウン才。昨年発売したガロビデオ「ＡＶ魂」の第二弾を、この度エロケンの守護神としてON　SALE!!

20:33:05:12
ゴールデンシャワー大噴射!!!

AV撮影ウラ話!!!

05:01:44:18

04:05:41:02
「北海欲情」番外地にチン入!!! 素人女をハメ殺し!!!

「AV魂」その後を濃縮!! 「前回登場した名古屋OLをSMの世界に引きずり込んだ。その後レイプビデオに出演させるんだけど、それはまた次回に」

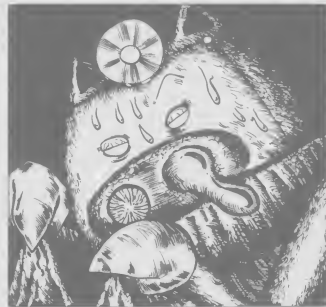
色んなパターンの女が見れる!! 「20才でイタ電M男に処女を捧げた原田なつみはいかにしてSMクラブで働くに至ったか」

女の人生と肉体のデパート!! 「撮影で泣かした渡辺里緒菜の風俗話と男性観」
「父親に犯されたのがキッカケで喘息になった女の子」

北海道はみんなエッチでアケスケだ!!
「コワイ人じゃないですね?って聞いてくるんだけど､コワイですよって言うわけないじゃんねえ(笑)」

「とにかく､俺がカメラを向ければ､もう<AV>なんだよ」
【平口広美／談】

★6月3日発売予定!!

通信販売は現金書留でお申し込みください。

GARO VIDEO ガロビデオ

テレグラムガロ
TELEGRAM GARO
税込価格3,262円(本体3107円)90分／HiFi･STEREO／カラー／VHS

伝説のライブ!!完全収録!!
ガロビデオ第一弾。91年11月に渋谷クラブクアトロで行われた、月刊漫画ガロの多彩な執筆陣によるミュージック･ライブの模様を生々しく収録。出演は蛭子能収、内田春菊、みうらじゅん、久住昌之、しりあがり寿、ひさうちみちお、根本敬ほか多数。司会は杉作J太郎。ガロ･フリークならずとも、ネオ･アングラ派にはこたえられない垂涎モノの映像でライブを完全再現した。

因果境界線
根本敬のべったらべたらこＶＩＤＥＯ
税込価格1,835円(本体1748円)60分／HiFi･STEREO／カラー／VHS

常識破壊の決定版!!因業バラエティ!!
ガロビデオ第二弾は因果漫画家･根本敬プレゼンツ。脳髄がとろけるイイ湯加減のバラエティ･ビデオだ。恐山で故･山田花子の霊を呼び、イイ顔を求めて朝鮮半島に渡る怒濤のロケーションを敢行。ほかに、闘う在日韓国人シンガー･川西杏のビデオクリップや、幻の名盤解放同盟推薦のポンチャック、電波系シンガー･原きみ子の「男女物語」を収録。

ひさご
根本敬プレゼンツ･ガロ脱特殊歌謡祭
税込価格3,670円(本体3495円)120分／HiFi･STEREO／カラー／VHS

炸裂する!!殺人的演芸ショー!!
ガロビデオ第三弾。92年に渋谷クラブクアトロで行われた、根本敬プロデュース「ガロ脱特殊歌謡祭」の模様を収録。暴力温泉芸者、在日韓国人ロッカー･川西杏、障害者パンクのＫＢＢフィーチャリング･つめ隊、大博士、ハイテクノロジースーサイドが出演。また、佐野史郎が友情出演して自慢の喉を披露。蛭子能収、久住昌之、みうらじゅん、杉作Ｊ太郎が幻の名曲「海千山千」を蘇らせる。

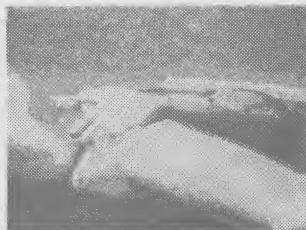
さむくないかい
特殊漫画大統領･根本敬監督作品
税込価格3,873円(本体3689円)90分
HiFi･STEREO／カラー／VHS／大人向け

イイ顔満載!!
ヌケないエロドラマ!!
ガロビデオ＆エロケン製作･第一弾は、本格超低予算Ｖシネマ。特殊漫画家･根本敬初監督作品。唯一の楽しみがセンズリという、40歳の童貞･亀ノ市が、ひょんなことから作曲家･吉田佐吉の弟子となり歌手を目指すが奴隷同然の日々。10連続センズリに己の未来を託した亀ノ市の運命やいかに…。ＳＥＸ、センズリとも全て本番のため成人指定に。主演･亀一郎。あの佐川一政が二役出演。

ＡＶ魂!!
平口広美の肉弾日記
税込価格3,038円(本体2893円)90分
HiFi･STEREO／カラー／VHS／成人向け

素人ハメ倒し!!
入魂のズルムケ弾炸裂!!
ガロビデオ＆エロケン製作第二弾は、ＡＶ監督平口広美がプライベートで撮りためた素人ハメ撮りＦＵＣＫや隠し撮り映像を濃縮させたヌケる一発。風俗店でＡＶスカウトした女の子をデビュー直前にツマミ喰いし、人妻の肛門を直腸が見えるまで広げさせ、ごく普通のＯＬにバイブ責め＆ノーパン街歩き＆真性本番をキメル。その他盛沢山で、エロ親父の本領を発揮させる。

ERO'ken エロケン

■恥ずかス～い女①
ふんどし巨乳のマリちゃん
見られると感じちゃう～ッ

22才、バストはＦカップ。人で賑わう海岸で巨乳を晒す。青空の下で羞恥に濡れながらバイブをくわえ、フンドシ姿Ｈな水着、露出プレイで濡れまくって、激しく昇天!!
野外露出と羞恥エロにこだわったシリーズ第一弾。

■恥ずかス～い女②
淫乱ボディのカトちゃん
めちゃめちゃ恥ずかし～ッ

スケベな肉体をコートに包み、その下はズロースに腹巻のオバちゃん下着姿。衆目の下で巨乳を晒し、羞恥にうち震えながらも秘肉を濡らす。電車内セーラー服＆顔面拷問で涙目状態に。仕上げはハゲヅラ、オヤジ下着で指マン昇天!!

各･定価６,000円（税･送料込み）60分／VHS

■脳内裏電影
〈禁断のエロ魔術〉

オナニー、アナル、盗撮、放尿、ヘアヌード…。これらのジャンク映像が豊富に散りばめられたサイケデリック･エロの魔術!!
エロマンティシズムのほのかな香りと、チンコルネ菌うようよのこのエロ芸術を見れば、たちまち脳内麻薬物質があふれ出すことうけあいだ。（※裏ビデオではありませんので御注意下さい）

￥１１,000(税･送料込み)60分／VHS

脳内㊙電影

●ガロビデオは書店でご注文ください。
通信販売は送料390円（２本以上は一律500円）です。
●エロケンのビデオは通信販売(送料込)のみです。
●通信販売は現金書留でご注文ください。

■宛先■
〒151 東京都渋谷区初台1-47-1
小田急西新宿ビル8F
㈱青林堂ガロビデオ／エロケン
問TEL03-3373-2142

噂の真相
反権力スキャンダルマガジン
(株)噂の真相　〒160 東京都新宿区新宿3-9-5-6F　TEL 03-3341-7578 FAX 03-3341-0860 郵便口座 00140-3-75386
いま日本の雑誌界で最も過激で面白い
本格派反権威スキャンダルマガジン！
毎月十日全国書店で一斉発売　定価四六〇円
大好評連載中
●高橋春男
●荒木経惟
●田中康夫
●本多勝一
●佐高　信
●中森明夫
●ナンシー関
●大槻義彦

MAG COMICS　6月最新刊　　6月19日5冊同時発売!

人生リセットボタン
花くまゆうさく

男がならぶのは、オッパイへの道なり。
そこに何があるというのか?
名作怪作多数収録
泣いてもいいこの一冊!

A5判
予価：本体950円

さすらい
青木雄二

あの『ナニワ金融道』のルーツがここにある!
マンガ家卒業宣言をしたばかりの
著者最後の傑作5編を収録。

A5判
予価：本体950円

ケンとエリカ　➔　江口寿史

あの名作『エリカの星』と『BOXERケン』が合体!　好調加筆中!!

A5判　予価：本体1000円

WILL YOU PLEASE BOTTLE THE ACID?
➔ 構成/江口寿史　画/河野哲郎

異彩を放つ偉才コンビが撃つ、面会洒脱のコミック・アート!!(佐野元春)

オールカラー　A4判　予価：本体2800円

転入生　➔　甲野 酉

何処にでもある風景、何気ない日常でも、視点を変えれば、新しい世界がひらけてくる。どこかとぼけて、なにか変わった学園マンガ。

A5判　予価：本体950円

●価格はすべて税別です。
●品切れの際は書店にてご注文下さい。

＊菅野修ジャズプレーヤーする!!

なな、な〜んと、菅野修氏はここ2年ほど前より地元盛岡で**フリージャズバンド活動**に情熱を注いでおられます。パートは**ピアノ**。送って下さったライブビデオを見ると、その演奏は**山下洋輔**を彷彿させるほど素晴らしく、正直言ってビックリしました。**7月12日**には、盛岡で**チャールズ・ゲイル**とライブをやるそうです。詳しくは次号の音楽情報コーナーをご覧になって下さい。また、久々に漫画原稿も仕上げて下さいました。**作品掲載**は次号で。刮目して待て！

＊今月の蛭子能収

久々に漫画の新刊**「松尾探偵」**を上梓された**人気者漫画家**の**蛭子能収氏**。郷里**長崎**で起きた**鳩が目に針**をさされた事件に、**心を痛めて**おられました。

＊東陽片岡氏、高知製版で缶詰になる！

今年の夏はいよいよ**フンドシを愛用**することに**決定**した**東陽片岡氏**。まっ、フンドシは良いが、締め切りが遅れるのは非常によろしくない。ということで、先月はついに編集部缶詰めを飛び越え、ナント**製版所に缶詰め**となった。描きあがったそばから製版に回すという**恐ろしい事態**に**ヒーヒー状態**ではあったが、とても製版所の二階とは思えない、**コタツのある畳の部屋**がヒヨジョーに気に入られたようで「この部屋、**月3万**で借りられませんかね、へへッへヘッ」と申しておられました。なお、今月は単行本**「ワシらにも愛をくだせえ」**のカバー等の描き下し作業のため、漫画はお休みでした。

＊三本義治、模索舎一日店長をする！

去る4月27日、**三本義治**さん新宿**模索舎**さんで**一日店長**をされました。小社発行**「マンガの本」**で使用された、三本さん手作りの**お面**や**パチスロ台**、**ホエール号**が飾り付けられた中で紙芝居を披露しました。「マンガの本」を買っていただいた方の似顔絵を、特製しおりに描いたり、レジを打ったとしっかりと店長のお仕事をされていました。

＊プリクラプレゼント！

河井克夫さんより**素敵なプレゼント！**のメッセージがあります。ではどうぞ。

拙作「東くんの恋人」のトビラの為に作成したプリクラが4枚余ったので欲しい方にさしあげます。女性に限る。青林堂「こんな漫画描いてても河井さんはいい人だと思います」係まで。（河井克夫）

どしどしご応募下さい。

今月の柱文（2本の巻）

※過去にナゴムギャルを経験し、なおかつ山田花子のファン、という方がいらしたら、当時のことなどをお聞きしたいので、編集部までご一報下さい。

●お待たせいたしました。古屋兎丸さんの「エミちゃん」次号掲載予定です。

♪長井さんに「明日から来て」と言われて青林堂に入ったのが84年、何かワタシの青春は全て「ガロ」に捧げたようなものでした。振り返るとアッという間だったような、長かったような…トシ、取るわけですな。で、ツァイトにいた飯田さんが青林堂へ。トシ取った者は去る、と…いうわけじゃないですが、昨年ツァイトに移籍してからも「ガロ」の担当ページは手伝って来ました。今後もインターネット上のオンラインマガジン「デジタルガロ」と、マルチメディアの世界でどう漫画をコンテンツ化してゆくかという事に専念しつつ、外から引続きボランティアとして「ガロ」のお役に立てればと思っています。編集後記はこれが最後です。皆さん長い間ありがとう！ （白取）

残飯整理

Qチビッコの頃、マンガとTVばっかりみて、パーブリンに過ごしてきた私ですが、今最も読み返したいマンガといえば「小学○年生」系お色気マンガ『ヘンチンポコイダー（永井豪氏）』でして、たしか主人公がポコイダーに変身するとき、パンツをおろしてチンチンをぐるぐる回転させてた気がするのですが…。すみません品の無い事しか憶えてなくって…。 （大場Q）

☆5月からガロ編集部にバイトとして入ることになりました。といってもこの場では以前からお世話になっていたのですが。旅に出たい↓貯金ナシ↓会社を辞める↓ガロに入る、ってなんか間違ってる様な気もするが…宜しくお願いしまぁーす。 （2第目、菜）

＊先月「クシー君のピカビアな夜」はもう出ますと言ったのに、出ませんでした。ごめんなさい。 （高市）

♂僕の記憶の澱にある一作といえば、なんつっても清水おさむ先生の描いたボクシング漫画ですね。モロあしたのジョーっつーキャラクターの人達が多数登場するんですが、ボクサー同士がなぜか路上でただ延々と殴り合うというだけの凄い漫画でした。んで、殴られる度に歯が何本も面白いように折れて、血飛沫とともに飛び散るんですね。でも次のコマではまた歯が全部生え揃っている。それが繰り返されるワケです。首が折れるほど殴られても、また傷一つ無い顔に復活して逆に相手を殴っている。なんとも爽快な漫画でした。 （ムサイ）

㈡出します、つりたさんと楠さんの作品集。で、関係者インタビューをやるのはいいんですが、なにしろテープ起こしその他モロモロの時間がない！ 誰かボランティアをしてくれる奇特な人いないですか？ ギャラは出ないが現物支給なら出来るぞ（Tシャツとか）。やっぱりやるからにはちゃんとしたモノを作りたいので。さて、ガロから生まれたもう一つの流れであるデジガロには、面白くて思わず「やられた」と思ってしまうようなモノを期待しております。皆さんもデジガロホームページURL=http://www.garo.co.jpにアクセスしてみて下さいね。 （浅）

●がんばります。 （志村）

円「かせいちゃん」や「かのこちゃん」でホノボノし、若木書房の母子物に涙したずっと昔。友達の家で「ママがこわい」を読んで帰れなくなってしまったり、尊敬する人に「よしこ先生」を挙げて先生に出席簿で殴られたあの頃、やっぱりまんがはいいなぁ。私よりずっと年下なのに、貸本とかに異様に詳しい。ひょっとして年をごまかしているのでは？お面をつけてる可能性もあるので、一度顔をつねってみようと思っています。今月で編集後記欄登場最終回の白取氏、「コンテンツ事業をしたい」という事で自らツァイトに移ったその夢に向って、困難に負けず頑張って下さい。 （手塚）

月刊漫画

ガロ

MONTHLY MANGA MAGAZINE GARO

1997 7 July

CONTENTS

SPECIAL ISSUE

GAROCKING-CHAIR

★表紙デザイン…スージー甘金
＋コガネムシスタジオ
★表紙イラスト…しりあがり寿
★背表紙イラスト…川崎タカオ

COMICS,PHOTOGRAPHS

OTHERS

ESSAY&COLUMNS

FROM EDITORS

■月刊漫画ガロ1997年７月号／1997年７月１日発行／第34巻 第８号 通巻391号
■発行所／株式会社青林堂 〒151 東京都渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル8F
【編集部】℡03-3373-2141 FAX03-3373-2215
【営業部】℡03-3373-2142 FAX03-3373-3550
■編集 発行人 山中潤
■編集部／手塚能理子 高市真紀 志村勝紀 北園一哉<映像事業部>
浅川満寛<営業部> 大場小ゆり<営業部> 飯田菜津
白取千夏雄<ツァイト>
■編集協力／古山啓一郎 藤田舞子

■印刷所／㈱光栄印刷 ■製本所／㈱一色製本所
■DTP協力／㈱ツァイト ℡03-3299-0461 (JGver3.1UG)